

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年12月21日
【事業年度】	第47期（自平成23年10月1日至平成24年9月30日）
【会社名】	株式会社 マミーマート
【英訳名】	Mammy Mart Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 岩崎 裕文
【本店の所在の場所】	埼玉県東松山市本町2丁目2番47号 （同所は登記上の本店所在地であり、実際の業務は最寄りの連絡場所で行っております。）
【電話番号】	該当事項はありません。
【事務連絡者氏名】	該当事項はありません。
【最寄りの連絡場所】	埼玉県さいたま市北区宮原町2丁目44番1号
【電話番号】	048(654)2511
【事務連絡者氏名】	財務部長 小野原 秀次
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜1丁目8番16号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次 決算年月	第43期 平成20年9月	第44期 平成21年9月	第45期 平成22年9月	第46期 平成23年9月	第47期 平成24年9月
売上高(百万円)	81,244	83,230	82,483	82,877	80,254
経常利益(百万円)	1,753	1,844	1,856	2,262	2,241
当期純利益(百万円)	792	824	713	1,199	758
包括利益(百万円)	-	-	-	1,221	735
純資産額(百万円)	16,095	16,751	17,253	18,291	18,843
総資産額(百万円)	30,701	31,745	34,356	32,292	37,227
1株当たり純資産額(円)	1,489.89	1,550.38	1,597.35	1,693.21	1,743.98
1株当たり当期純利益金額 (円)	73.41	76.39	66.06	111.14	70.25
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率(%)	52.4	52.7	50.2	56.6	50.6
自己資本利益率(%)	5.0	5.0	4.2	6.8	4.1
株価収益率(倍)	16.89	15.87	18.01	11.80	22.92
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	1,836	2,113	1,856	3,508	6,861
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	1,971	2,574	3,935	97	4,295
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	238	97	2,287	3,308	931
現金及び現金同等物の期末残 高(百万円)	2,132	1,769	1,978	2,081	3,716
従業員数 [外、平均臨時雇用者数](人)	647 [2,483]	640 [2,466]	656 [2,443]	604 [2,288]	576 [2,327]

(注) 1. 売上高には消費税等(消費税及び地方消費税をいう。以下も同じ。)は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次 決算年月	第43期 平成20年 9月	第44期 平成21年 9月	第45期 平成22年 9月	第46期 平成23年 9月	第47期 平成24年 9月
売上高(百万円)	72,459	74,768	73,971	78,267	79,434
経常利益(百万円)	1,563	1,689	1,690	1,921	1,911
当期純利益(百万円)	670	746	468	1,006	594
資本金(百万円)	2,660	2,660	2,660	2,660	2,660
発行済株式総数(株)	10,796,793	10,796,793	10,796,793	10,796,793	10,796,793
純資産額(百万円)	15,751	16,325	16,588	17,429	17,813
総資産額(百万円)	28,854	30,213	32,874	31,072	35,724
1株当たり純資産額(円)	1,458.98	1,512.25	1,536.60	1,614.54	1,650.10
1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当額) (円)	17.00 (8.50)	17.00 (8.50)	17.00 (8.50)	17.00 (8.50)	17.00 (8.50)
1株当たり当期純利益金額 (円)	62.10	69.18	43.44	93.22	55.04
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率(%)	54.6	54.0	50.5	56.1	49.9
自己資本利益率(%)	4.3	4.7	2.9	5.9	3.4
株価収益率(倍)	19.96	17.52	27.39	14.07	29.25
配当性向(%)	27.4	24.6	39.1	18.2	30.9
従業員数 [外、平均臨時雇用者数](人)	559 [1,848]	539 [1,682]	546 [1,628]	528 [1,613]	505 [1,626]

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

2【沿革】

当社（旧岩崎商事(株)）は、昭和40年10月11日、生鮮食料品等の小売販売を目的として設立いたしました。
その後、株式の額面金額を500円から50円に変更するため、昭和56年10月1日、形式上の存続会社である(株)ヤオセー（旧称(株)八百清魚店、昭和25年4月11日設立）に吸収合併し、商号を岩崎商事(株)といたしました。
したがって、以下は、実質上の存続会社である旧岩崎商事(株)（現(株)マミーMarkt）に関する事項を記載しております。

事業内容の変遷

年月	事項
昭和40年10月	資本金600千円にて埼玉県東松山市本町に岩崎商事(株)を設立。
昭和45年3月	埼玉県東松山市に東松山ショッピングセンター店を出店。
昭和51年6月	埼玉県川越市に志多町店を出店、10店舗となる。
昭和56年10月	株式の額面金額を変更するため(株)ヤオセーに吸収合併（資本金158百万円）され、同時に商号を岩崎商事(株)とする。
昭和62年10月	埼玉県坂戸市に生鮮加工センターを新設。
昭和63年4月	(株)マミーMarkt流通グループを吸収合併、商号を(株)マミーMarktに変更（資本金167百万円）。
平成元年7月	仕入先との共存共栄を図る事を目的として、マミー会（会員311社）を発足。
平成元年9月	埼玉県東松山市に松山町店を出店、30店舗となる。
平成3年5月	社団法人日本証券業協会（東京地区）の店頭登録銘柄として株式を公開。
平成3年8月	籠原店（埼玉県熊谷市）を隣接地に移転増床し、複合大型店「モア・ショッピングプラザ」を開店。
平成4年11月	埼玉県さいたま市北区宮原町に新本部社屋落成、本部機構を移転。
平成8年11月	千葉県に第1号店である増尾台店（千葉県柏市）を複合型店舗として出店。
平成10年5月	埼玉県熊谷市の「ソシオ熊谷物流センター」に物流機能を一本化する。
平成11年10月	彩裕フーズ(株)（現・連結子会社）、マミーサービス(株)（現・連結子会社）を100%子会社として設立。
平成11年11月	住友商事(株)と資本業務提携。
平成16年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場。
平成16年12月	(株)ギガ物産を60%出資し、子会社として設立。
平成19年9月	(株)ギガ物産の増資引受をし、出資比率87.5%となる。
平成19年11月	(株)産直開発（現・連結子会社）を90%出資し、子会社として設立。
平成22年4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所JASDAQ市場（現・大阪証券取引所JASDAQ（スタンダード））に上場
平成23年3月	(株)ギガ物産の株式をすべて売却。
平成24年9月	埼玉県川越市に彩裕フーズ(株)の工場を新設。

3【事業の内容】

当社グループは、当社及び子会社4社で構成され、スーパーマーケット事業を主な事業内容としております。当社グループの事業に係る位置付けは、次のとおりであります。

なお、次の2事業は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

(1) スーパーマーケット事業

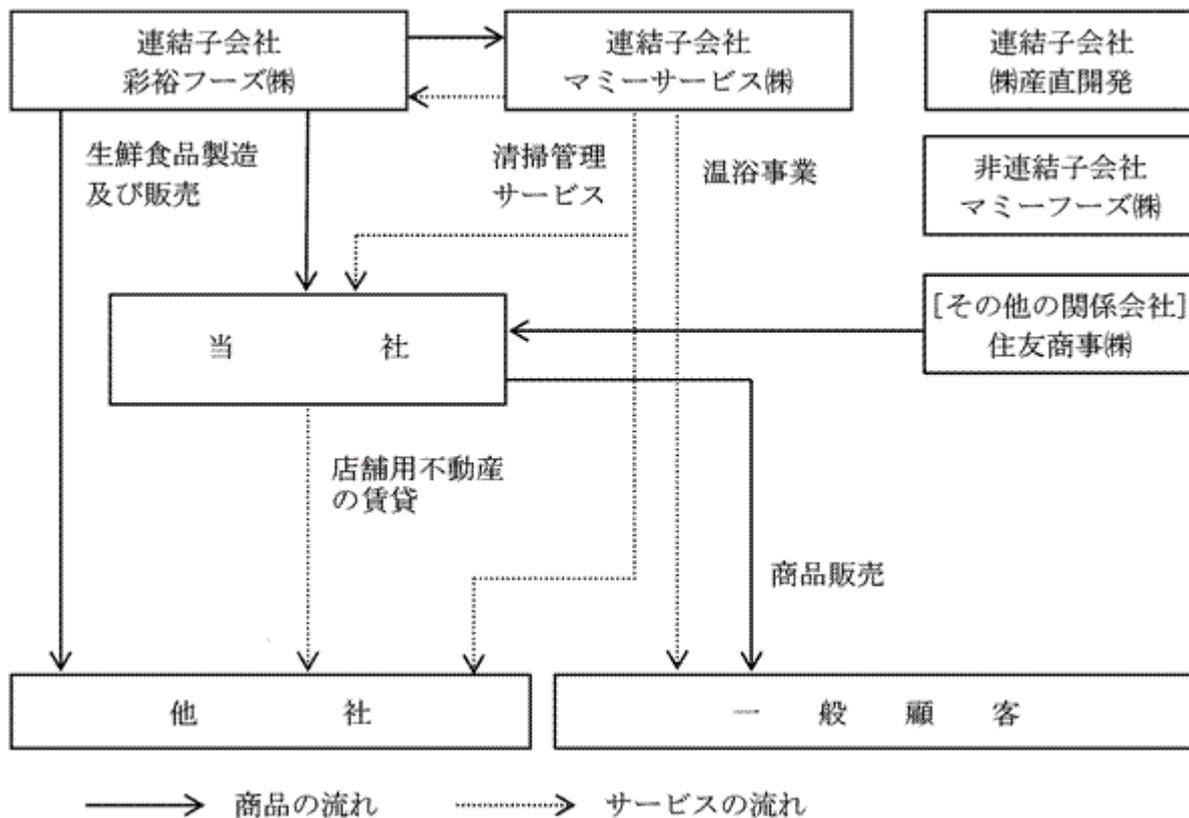
主要な商品は生鮮食料品、一般食料品、日用雑貨他であり、当社が販売を行っております。また、生鮮食料品の一部は、子会社彩裕フーズ(株)が加工しており、当社店舗の清掃・管理サービスを子会社マミーサービス(株)が行っております。なお、(株)産直開発は連結の範囲に含めておりますが、事業の開始には至っておりません。

(2) その他の事業

子会社マミーサービス(株)が温浴事業を行っております。

以上述べた事項を事業系統図によって示すと次のとおりであります。

[事業系統図]



(注) マミーフーズ(株)は、平成16年3月10日付解散により重要性がなくなったため連結の範囲から除外しております。

4【関係会社の状況】

(1) 連結子会社

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業内容	議決権の所有割合または被所有割合 (%)	関係内容
彩裕フーズ(株)	埼玉県川越市	50	生鮮食品製造、加工、販売	100.0	当社が販売する生鮮食品の加工を行っている。 なお、当社が所有する建物等を賃貸している。 役員の兼任..... 2名
マミーサービス(株)	埼玉県さいたま市北区	90	清掃、施設管理サービス、温浴事業	92.3	当社の店舗の清掃及び管理サービスを行っている。 当社より資金援助を受けている。 役員の兼任..... 1名
(株)産直開発	埼玉県春日部市	10	スーパーマーケット事業	90.0	食料品等の販売店を開業・運営していく予定。 当社より資金援助を受けている。 役員の兼任..... 3名

(2) その他の関係会社

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業内容	議決権の所有割合または被所有割合 (%)	関係内容
住友商事(株)	東京都中央区	219,279	総合商社	被所有 20.05	-

(注) 有価証券報告書を提出しております。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成24年9月30日現在

セグメントの名称	従業員数(人)	
スーパーマーケット事業	574	(2,261)
その他の事業	2	(66)
合計	576	(2,327)

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時従業員(嘱託・パートタイマー・アルバイト)の年間平均人員数(8時間換算)は()内に外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

平成24年9月30日現在

従業員数(人)	平均年令(才)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
505 (1,626)	38.9	13.3	5,260

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員(嘱託・パートタイマー・アルバイト)の年間平均人員数(8時間換算)は()内に外数で記載しております。
2. 平均年間給与は、基準外賃金、賞与を含んでおります。また、嘱託を含めて計算しております。
3. 提出会社のセグメントは、スーパーマーケット事業であります。

(3) 労働組合の状況

- イ. 名称 UIゼンセン同盟オールマミーユニオン
ロ. 上部団体名 UIゼンセン同盟地方部会
ハ. 結成年月日 昭和60年2月3日
ニ. 組合員数 1,168人(平成24年9月30日現在でパートタイマーを含んでおります。)
ホ. 労使関係 組合結成以来、労使関係はきわめて良好に推移しております。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要や消費マインドの上昇により緩やかな回復基調が見られるものの、欧州債務不安の再燃懸念や中国をはじめとする東アジア経済成長の鈍化等、依然として先行きの不透明な状況が続いております。

スーパーマーケット業界におきましては、「税と社会保障制度の一体改革」に伴う増税と急速に進展する少子・高齢化社会、経済の空洞化進展に伴う国内経済の停滞等の将来不安を背景とした消費者の生活防衛意識の高まりや、原発問題に端を発する食の安心・安全への関心の高まりから、さらなる消費者ニーズの多様化、高度化への対応が求められ、厳しい経営環境となっております。

このような情勢の中、当社グループ（当社及び連結子会社）は、「ディステーション・ストアの構築」を営業スローガンとして、これまで以上にお客様の立場に立った商品政策や売場展開、お客様に親しみと信頼を得られる接客に努め、お客様視点でより魅力ある店舗づくりを強力に推進してまいりました。

営業面におきましては、徹底したコストダウンによる低価格戦略の推進、顧客ニーズに対応した良質で割安感のある品揃えを実現するためディステーション商品（お客様がその商品を目指してご来店いただける商品）の開発を進めました。また、外部モニターを活用した全店でのCS（カスタマーサティスファクション）活動に取り組み、サービスレベルの向上を図っております。

社会貢献活動におきましては、東日本大震災から1年以上を経過し、今なお不自由な生活を余儀なくされている被災地域の子供達が、笑顔で元気に成長できるようにとの想いから、NPO法人に協賛した「想いつながる 絆 義援金」活動として、3月と4月に当社のプライベートブランド商品及び一部生鮮商品の売上高1%を、被災地域の子供達への支援金として寄付いたしました。また、「災害時における地方公共団体の被災者救援活動・物資の供給協力に関する協定」を当社出店エリアの12市町と締結しております。

設備投資としましては、(株)マミーMarktにおいて、平成24年4月に西平井店（千葉県流山市）、平成24年6月に飯山満駅前店（千葉県船橋市）を新規出店いたしました。店舗の改装につきましては6店舗を実施した他、マミーサービス(株)が行っている温浴事業において1店舗の改装を実施いたしました。したがって、当連結会計年度末の店舗数は温浴事業を含め62店舗となりました。

また、惣菜・精肉商品の製造加工を行う彩裕フーズ(株)におきまして、将来の多店舗展開への対応、店舗におけるさらなる作業効率改善、商品品質改善を進めるため、平成24年9月、埼玉県川越市に製造加工センターを新設いたしました。

この結果、当連結会計年度の営業成績は、売上高80,254百万円（前期比3.2%減）、営業利益1,863百万円（同1.2%増）、経常利益2,241百万円（同0.9%減）、当期純利益758百万円（同36.8%減）となりました。

セグメント別の営業の状況は以下のとおりです。

[スーパーマーケット事業]

当期末の店舗数は、埼玉県43店舗、千葉県13店舗、東京都3店舗、栃木県1店舗の計60店舗となりました。当期の業績は、売上高79,581百万円（前期比3.2%減）、営業利益1,844百万円（同0.4%増）となりました。

[その他の事業（温浴事業）]

温浴事業につきましては、売上高673百万円（前期比1.7%増）、営業利益18百万円（前期比402.8%増）となりました。（平成24年9月末現在2店舗）

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ1,635百万円増加し3,716百万円となりました。当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により得られた資金は、6,861百万円（前期は3,508百万円の収入）となりました。これは主に当連結会計年度末日が金融機関の休業日であることにより、社内に資金が留保したためであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用した資金は、4,295百万円（前期は97百万円の支出）となりました。これは主に有形固定資産の取得によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により使用した資金は、931百万円（前期は3,308百万円の支出）となりました。これは主に長期借入金の返済によるものであります。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 販売実績

セグメントの名称	当連結会計年度 (自平成23年10月1日 至平成24年9月30日)	前年同期比(%)
スーパーマーケット事業(百万円)	79,581	96.8
その他の事業(百万円)	673	101.7
合計(百万円)	80,254	96.8

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。
2. 上記金額には消費税等は含まれておりません。
3. 総販売実績に対し、10%以上に該当する販売先はありません。

(2) 仕入実績

セグメントの名称	当連結会計年度 (自平成23年10月1日 至平成24年9月30日)	前年同期比(%)
スーパーマーケット事業(百万円)	60,283	96.8
その他の事業(百万円)	226	89.2
合計(百万円)	60,509	96.8

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。
2. 上記金額には消費税等は含まれておりません。

3【対処すべき課題】

当社グループを取り巻く経営環境は、東日本大震災の復興に伴う財源問題や欧州の金融不安等による為替相場の影響など先行き不透明感が強く、国内の景況、雇用は引き続き厳しいものと予想され、個人消費は低調に推移するものと見られます。スーパーマーケット業界におきましては、原発事故に端を発する放射能汚染問題からの食の安全性に対する消費者の関心が一層高まりつつあり、また、流通業界の寡占化や競合の激化、熾烈な価格競争が予想され、生き残りを目指す大変厳しい経営環境が続くものと予想されます。

こうした状況の中で、当社グループが独立系企業として持続的な収益体質を確立するため対処すべき課題は以下のとおりであります。

生産性の向上・・・1店舗当たり、従業員1人当たりの売上高の向上

社員、パート従業員を含めた人材の育成、OJTを推進・強化する組織的な教育システムの構築

販売分類別の商品構成・品揃え戦略の再構築・・・新規商品開発、商品供給ルートの変更、プライスライン・プライスポイントの明確化

店舗オペレーションの標準化・作業改善による労働生産性の改善・・・固定作業のシステム化・装備の拡充、商品のアウトパック比率UP、標準作業の徹底によるムダ・ムリ・ムラの排除

店舗数の拡大、販売推進に伴う物流機能の再構築

また、子会社の課題は以下のとおりであります。

彩裕フーズ(株).....製造から販売までの一貫体制により、より身近となったお客様のニーズにお応えしうる安心・安全な商品を開発・販売する体制を確立していきます。また、グループ外への販路拡大にも努めてまいります。

マミーサービス(株).....お客様がいつもきれいなお店と感じていただけるクリンリネスサービスを提供するとともに、天然温泉による温浴事業を含め、業容の拡大に努めてまいります。

4【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、財務状態及び株価等に影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。また、必ずしも事業上のリスク要因と考えていない事項についても、投資家の判断上重要であると考えられる事項については、投資家に対する積極的な情報開示の観点から以下に記載しております。なお、当社グループは、これらのリスクの発生可能性を認識した上で、発生回避及び発生した場合の対応に努める所存であります。

(1) 経済状況について（景気動向、金利変動）

当社グループが営む小売事業及びテナント収入は景気や個人消費の動向、異常気象等による生鮮相場の大幅な変動等の影響を受けます。

また、当社グループの設備投資資金は主に固定金利による借入金によって調達をしており、金利変動による影響は比較的少ないと考えられます。しかしながら、急激に金利が上昇した場合は、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 業界動向及び出店競争について

現下のスーパーマーケット業界は、オーバーストア状態にあり、その上各社が積極的な新規出店を行う状況が続いております。その中で当社グループは常に競合他社との差別化を図るべく努力をしておりますが、このような競争の激化は、当社グループの売上高及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 食品衛生及び商品の安全性について

当社グループは、生鮮食料品をはじめ加工食品・ドライ・日配食品まで幅広く商品を扱っており、所轄の保健所を通じて「食品衛生法」に基づく営業許可を取得しております。食品の安全性には平素から細心の注意を払い、食中毒の未然防止、トレーサビリティ（生産履歴の明示）、衛生管理等の徹底、商品の検査の実施等お客様に安心して買い物を楽しんでいただけるよう努めております。しかしながら、万一食中毒等の発生でお客様にご迷惑をおかけする事態が発生した場合は、当社グループの売上高及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 品質表示等に関わる法的規制について

食肉に関する偽装事件等、商品、とりわけ食品の品質や安全性に関する問題が多発しています。当社グループは、「JAS法」「計量法」「景品表示法」等の法令遵守の徹底を図っておりますが、商品の品質や計量等の問題が発生した場合、当社グループの売上高及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 雇用環境と人材の確保・育成について

今後の差別化戦略の上でも優秀な人材の確保は最重要課題であります。当社は外部研修制度の活用、社内研修制度の整備、自己啓発への報奨制度等の施策をもって人材の育成、モチベーションの向上に力を注いでおります。しかし、即戦力を求める他社への人材流出のリスクは増大しております。また、人材確保に関わる諸費用、人件費の上昇等は経費の増加要因となります。また、正社員のみならず多数のパートタイマーを雇用する中、社会保険加入義務化の法改正が施行された場合など、当社グループが負担する保険料の増加や人件費などの増加要因が、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 新規出店について

当社グループは、新規の出店について一定規模の店舗でドミナント化を意図した戦略的な出店を進める方針ですが、大規模小売店立地法及び所謂まちづくり3法の施行に伴い、郊外の大規模開発に制限を受けます。このためドミナント形成に時間を要したり、各社の競合から投資コストが増加する傾向も見られ、当社グループの財務内容に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 個人情報の保護について

当社は、マミークラブポイントカード会員様の個人情報を所有しております。個人情報の管理については、情報管理責任者を選任し、情報セキュリティに関する規程の整備や従業員教育により、法令遵守の徹底を図っておりますが、万一、個人情報の流出が発生した場合には、損害賠償に加え、社会的信用が失われ、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 自然災害による影響について

当社グループの本社、物流センター、店舗所在地において、大規模な地震、台風等の災害或いは予期せぬ事故等が発生した場合、当該施設及び流通網に倒壊等物理的な損害が生じて、営業活動が阻害され、当社グループの売上高及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

5【経営上の重要な契約等】

(1) 継続的商取引契約

相手方の名称	国名	契約品目	契約の内容	契約期間
(株)シジシージャパン	日本国	食品	(株)シジシージャパンの取り扱い商品について一定基準による割当て、または当社の注文に基づく商品を継続的に引取る。	商取引契約締結の日（昭和52年9月1日）から加盟店を脱退する日まで。

(2) 当社が店舗展開に関わる支援等を受ける契約

相手方の名称	国名	契約の内容	契約期間
(株)ビッグハウス	日本国	店舗の業態コンセプトとノウハウに関する指導及びC Iの使用を目的とする契約。	契約締結の日（平成6年11月28日）から解約の意思表示があるまで。

6【研究開発活動】

該当事項はありません。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成しております。この連結財務諸表の作成に当たっては、過去の実績や状況に応じ合理的だと考えられる様々な要因に基づき、見積り及び判断を行っております。

(2) 財政状態の分析

当連結会計年度末における資産につきましては、前連結会計年度末に比べ4,934百万円増加し37,227百万円（前期比15.3%増）となりました。これは主に、当連結会計年度末日が金融機関の休業日であることに伴う現金預金の留保及び新規出店による固定資産の増加によるものであります。

当連結会計年度末における負債につきましては、前連結会計年度末に比べ4,383百万円増加し18,384百万円（同31.3%増）となりました。これは主に、当連結会計年度末日が金融機関の休業日であることに伴い仕入債務が持ち越されたことによるものであります。

当連結会計年度末における純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ551百万円増加し18,843百万円（同3.0%増）となりました。これは主に、当期純利益を計上したことによる増加であります。

キャッシュ・フローの状況につきましては、「第2 事業の状況 1 業績等の概要」に記載のとおりであります。

(3) 当連結会計年度の経営成績の分析

当社グループは、スーパーマーケット事業において2店舗の新規出店を行い、既存店の改装を6店舗実施いたしました。競合各社の積極的な出店や低価格競争等は続いたものの、節電に関わる商品を中心に消費マインドの回復がみられ、当連結会計年度の経営成績は、売上高80,254百万円（前期比3.2%減）、営業利益1,863百万円（同1.2%増）、経常利益2,241百万円（同0.9%減）、当期純利益758百万円（同36.8%減）となりました。

営業利益につきましては、販売費及び一般管理費の削減に努めたことにより1,863百万円（同1.2%増）となりました。

経常利益につきましては、営業外収益412百万円、営業外費用35百万円を計上し、2,241百万円（同0.9%減）となりました。

特別損益につきましては、特別損失として394百万円を計上しております。内訳は減損損失228百万円、転貸損失引当金繰入額108百万円、固定資産除却損54百万円等であります。

この結果、当期純利益は758百万円（同36.8%減）となりました。

(4) 経営成績に重要な影響を与える要因について

「4 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

(5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当連結会計年度の資金の状況は、営業活動によるキャッシュ・フローにより、得られた資金で新規出店店舗の建物等の取得を行いました。しかしながら、当連結会計年度末日が金融機関の休業日で社内に資金が留保したため、現金及び現金同等物は前連結会計年度末に比べ1,635百万円増加して3,716百万円となりました。

キャッシュ・フローの状況については「1 業績等の概要(2)キャッシュ・フロー」をご参照ください。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当連結会計年度におけるスーパーマーケット事業の設備投資額は、33億71百万円でありました。主たるものは、新規出店に伴う建物の取得、彩裕フーズ㈱の製造加工センター新設等であります。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりであります。

(1) 提出会社

(平成24年9月30日現在)

事業所名(所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)				従業員数(人)
			土地 (面積㎡)	建物及び 構築物	その他	合計	
埼玉県 籠原店(熊谷市) 他 42店舗	スーパーマーケット事業	店舗	4,649 (37,300)	3,721	554	8,925	228 (1,117)
千葉県 増尾台店(柏市) 他 12店舗	スーパーマーケット事業	店舗	3,038 (45,767)	1,894	287	5,220	73 (345)
東京都 小平小川店(小平市) 他 2店舗	スーパーマーケット事業	店舗	463 (3,415)	208	51	722	13 (77)
栃木県 足利店(足利市)	スーパーマーケット事業	店舗	- (-)	-	5	5	7 (31)
本部 (埼玉県さいたま市北区)	スーパーマーケット事業	事務所他	378 (7,828)	7	27	413	184 (56)
賃貸物件 (埼玉県ふじみ野市)他	スーパーマーケット事業	店舗等	477 (24,882)	1,208	266	1,952	- (-)

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、機械及び装置・車両運搬具・工具、器具及び備品の合計であり、建設仮勘定を含んでおりません。なお、金額には消費税等を含んでおりません。

2. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員(嘱託・パートタイマー・アルバイト)の年間平均人員数(8時間換算)は()内に外数で記載しております。

3. 本部の土地は、出店予定用地であります。

4. 現在休止中の主要な設備はありません。

5. 上記の他、連結会社以外からの主要なリース設備の内容は以下のとおりであります。

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	主なリース期間 (年)	年間リース料 (百万円)	リース契約残高 (百万円)
飯能武蔵丘店 (埼玉県飯能市) 他 1店舗	スーパーマーケット事業	冷凍ケース等の 店舗用機器	5	37	3

(2) 国内子会社

(平成24年9月30日現在)

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)				従業員数 (人)
				土地 (面積㎡)	建物及び 構築物	その他	合計	
彩裕フーズ㈱	生鮮加工センター (埼玉県川越市)	スーパー マーケット 事業	生鮮食品加工設備、事 務所	122 (5,511)	1,196	740	2,059	70 (511)
マミーサービス㈱	むさしの湯他 (埼玉県さいたま市)他	スーパー マーケット 事業	店舗、事務所	-	0	7	7	1 (124)
		その他の事 業(温浴事 業)	店舗	-	654	17	671	- (66)

- (注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、機械及び装置・車両運搬具・工具、器具及び備品の合計であり、建設仮勘定を含んでおりません。なお、金額には消費税等を含んでおりません。
2. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員(嘱託・パートタイマー・アルバイト)の年間平均人員数(8時間換算)は()内に外数で記載しております。
3. 彩裕フーズ㈱の設備のうち、建物及び構築物1,189百万円、土地122百万円(5,511㎡)、その他266百万円については、提出会社から賃借しているものであります。
4. 現在休止中の主要な設備はありません。
5. 上記の他、連結会社以外からの主要なリース設備の内容は以下のとおりであります。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	主なリース期間 (年)	年間リース料 (百万円)	リース契約残高 (百万円)
彩裕フーズ㈱	生鮮加工センター (埼玉県川越市)	スーパー マーケット 事業	生鮮食品加工設備	6	19	4

3【設備の新設、除却等の計画】

重要な設備の新設

平成24年9月30日現在の設備計画は次のとおりであります。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達方法	着手及び完了予定年月		年間売上増 加予定額 (百万円)
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
提出会社	川越小室店 (埼玉県川越市)	スーパーマ ーケット事業	店舗	2,124	440	自己資金 及び借入金	平成24年4 月	平成24年11 月	2,500
提出会社	岩槻府内店 (埼玉県さいたま 市)	スーパーマ ーケット事業	店舗	773	248	自己資金 及び借入金	平成24年6 月	平成24年12 月	1,500
提出会社	白岡西店 (埼玉県白岡市)	スーパーマ ーケット事業	店舗	594	45	自己資金 及び借入金	平成24年6 月	平成25年2 月	1,300
提出会社	柏根戸店 (千葉県柏市)	スーパーマ ーケット事業	店舗	670	123	自己資金 及び借入金	平成24年3 月	平成25年3 月	1,300
提出会社	船橋夏見台店 (千葉県船橋市)	スーパーマ ーケット事業	店舗	615	19	自己資金 及び借入金	平成24年2 月	平成25年7 月	1,300
提出会社	流山セントラル店 (千葉県流山市)	スーパーマ ーケット事業	店舗	513	7	自己資金 及び借入金	平成24年6 月	平成25年7 月	1,000

- (注) 1. 今後の所要資金4,403百万円は、自己資金及び借入金にて調達予定であります。
2. 投資予定金額には差入保証金、敷金を含めております。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	18,850,500
計	18,850,500

【発行済株式】

種類	事業年度末 現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年12月21日)	上場金融商品取引所名ま たは登録認可金融商品取 引業協会名	内容
普通株式	10,796,793	10,796,793	大阪証券取引所 JASDAQ市場 (スタンダード)	完全議決権株式で権利内 容に何ら限定のない当社 における標準となる株式 であり、単元株式数は100 株であります。
計	10,796,793	10,796,793	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減 額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成11年11月27日(注)	1,080,000	10,796,793	604	2,660	604	2,856

(注) 第三者割当(割当先 住友商事株)

発行価格 1,120円

資本組入額 560円

(6) 【所有者別状況】

平成24年9月30日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							計	単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	12	5	163	2	-	1,710	1,892	-
所有株式数(単元)	-	13,359	5	49,426	5	-	45,130	107,925	4,293
所有株式数の割合(%)	-	12.4	0.0	45.8	0	-	41.8	100.0	-

(注) 自己株式1,438株は、「個人その他」に14単元及び「単元未満株式の状況」に38株を含めて記載しております。

(7) 【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名または名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
住友商事株式会社	東京都中央区晴海1丁目8番11号	2,164	20.05
岩崎 悦久	埼玉県東松山市	1,828	16.93
マミーマーケット共栄会	埼玉県さいたま市北区宮原町2丁目44番1号	842	7.81
株式会社つしま	埼玉県東松山市本町2丁目2番47号	617	5.72
株式会社ライブ・コア	埼玉県東松山市本町2丁目2番47号	571	5.30
岩崎 裕文	埼玉県さいたま市浦和区	553	5.13
株式会社埼玉りそな銀行	埼玉県さいたま市浦和区常盤7丁目4番1号	345	3.20
株式会社武蔵野銀行 (常任代理人 日本マスタートラスト信託銀行株式会社)	埼玉県さいたま市大宮区桜木町1丁目10番8号 (東京都港区浜松町2丁目11番3号)	303	2.81
株式会社シジシージャパン	東京都新宿区大久保2丁目1番1号	271	2.51
国分株式会社	東京都中央区日本橋1丁目1番1号	212	1.97
計		7,709	71.42

(8) 【議決権の状況】
【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,791,100	107,911	-
単元未満株式	普通株式 4,293	-	-
発行済株式総数	10,796,793	-	-
総株主の議決権	-	107,911	-

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名または名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社マミーマーケット	埼玉県東松山市本町 2 丁目 2 番47号	1,400	-	1,400	0.01
計	-	1,400	-	1,400	0.01

(9) 【ストックオプション制度の内容】
該当事項はありません。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議または取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	64	97,860
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式には、平成24年12月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含めておりません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
保有自己株式数	1,438	-	1,438	-

3【配当政策】

当社は、株主各位に対する利益還元を経営の最重要政策として位置付けており、小売業界における競争激化に対応した積極的な新規出店と魅力ある売り場づくりを維持・強化するとともに、業績に裏付けられた成果配分を行うこととしております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。これらの剰余金の配当の決定機関は取締役会であります。

当期の配当金につきましては、中間配当金として8円50銭の配当を実施いたしました。期末配当金につきましては、中間配当金と同額の8円50銭の配当を実施することを決定いたしました。この結果、当期の配当性向は30.9%、自己資本利益率は3.4%、株主資本配当率は1.0%となります。

内部留保金につきましては、今後のさらなる競争激化等に対応すべく、積極的な新規出店や既存店の改装等の営業力強化及び財務体質強化の原資として活用してまいります。

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めのある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める旨定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額	1株当たり配当額
平成24年5月15日 取締役会決議	91百万円	8円50銭
平成24年11月14日 取締役会決議	91百万円	8円50銭

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第43期	第44期	第45期	第46期	第47期
決算年月	平成20年9月	平成21年9月	平成22年9月	平成23年9月	平成24年9月
最高(円)	1,321	1,359	1,319	1,400	1,649
最低(円)	1,001	1,020	1,108	1,030	1,305

(注) 最高・最低株価は、平成22年4月1日より大阪証券取引所(JASDAQ市場)におけるものであり、平成22年10月12日より大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。それ以前はジャスダック証券取引所におけるものであります。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成24年4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高(円)	1,541	1,615	1,640	1,630	1,630	1,649
最低(円)	1,450	1,481	1,551	1,510	1,560	1,570

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 会長		岩崎 悦久	昭和15年1月10日生	昭和35年5月 ㈱八百清魚店(現㈱マミーマー ト)入社、専務取締役 昭和40年10月 岩崎商事㈱(現㈱マミーマー ト)設立と同時に取締役商品部 長 昭和46年11月 当社取締役副社長 昭和55年11月 当社代表取締役副社長 昭和56年8月 当社代表取締役社長 平成16年12月 ㈱ギガ物産代表取締役会長 平成20年12月 当社代表取締役会長(現任) 平成23年3月 ㈱ギガ物産代表取締役会長(退 任)	(注)4	1,828
代表取締役 社長		岩崎 裕文	昭和47年1月26日生	平成8年9月 ㈱ロビンソンジャパン入社 平成10年10月 当社入社 平成10年12月 当社取締役 平成11年1月 当社取締役営業副本部長 平成13年4月 当社取締役総合企画室長 平成14年4月 当社常務取締役 平成14年10月 当社常務取締役管理本部長 平成15年10月 当社常務取締役営業本部長 平成18年10月 当社常務取締役業務統括本部長 平成18年12月 当社代表取締役副社長兼業務統 括本部長 平成20年12月 当社代表取締役社長(現任)	(注)4	553
常務取締役	第2商品事業 部長	秋葉 和夫	昭和33年12月9日生	昭和54年12月 岩崎商事㈱(現㈱マミーマー ト)入社 平成14年4月 当社取締役営業企画室長 平成15年4月 当社取締役システム部長 平成16年10月 当社取締役販売事業部長兼シス テム部長 平成17年4月 当社取締役商品事業部長 平成18年12月 当社常務取締役商品事業部長 平成19年8月 当社常務取締役営業本部長 平成20年12月 当社常務取締役商品事業部長 平成22年4月 当社常務取締役第2商品事業部 長(現任)	(注)4	1
取締役		斯波 範雄	昭和25年9月3日生	昭和48年4月 ㈱忠実屋(現㈱ダイエー)入社 平成15年5月 当社入社 平成15年10月 当社販売事業部長 平成15年12月 当社取締役販売事業部長 平成17年9月 当社取締役経費構造改革担当 平成18年10月 当社取締役業務改革担当 平成18年12月 当社取締役管理本部長兼業務改 革担当 平成20年7月 当社取締役管理本部長 平成22年4月 当社取締役第1商品事業部長 平成24年8月 彩裕フーズ㈱代表取締役社長 (現任) 当社取締役(現任)	(注)4	1

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	第1商品事業部長兼第1商品事業部鮮魚部長	石黒 一広	昭和37年10月3日生	昭和60年4月 岩崎商事(株)(現株マミーマーケット)入社 平成14年1月 当社人事部エデュケーター 平成15年10月 当社販売事業部第1販売部長 平成19年12月 当社取締役営業本部青果部長 平成20年1月 当社取締役(株)産直開発担当 平成20年9月 当社取締役店舗活性化プロジェクトリーダー 平成22年4月 当社取締役第1商品事業部鮮魚部長 平成24年8月 当社取締役第1商品事業部長兼第1商品事業部鮮魚部長(現任)	(注)4	4
取締役	第2商品事業部拡販商品担当部長	宮崎 聡	昭和37年12月29日生	昭和60年4月 岩崎商事(株)(現株マミーマーケット)入社 平成11年10月 当社商品事業部精肉担当部長 平成14年5月 当社第1商品事業部惣菜部長 平成19年12月 当社取締役営業本部日配ベーカリー部長 平成20年12月 当社取締役販売事業部長 平成21年4月 取締役販売事業部長兼顧客サービス室長 平成22年4月 当社取締役リサーチ室長 平成24年10月 当社取締役第2商品事業部拡販商品担当部長(現任)	(注)4	2
取締役	統括経営監査部長	東谷 月雄	昭和29年4月26日生	昭和53年4月 住友商事(株)入社 平成22年7月 当社入社、統括経営監査部長 平成22年12月 当社取締役統括経営監査部長(現任)	(注)4	-
取締役		織茂 潤二	昭和34年5月12日生	昭和57年4月 住友商事(株)入社 平成18年6月 (株)住商ドラッグストアーズ取締役営業副本部長 平成20年4月 同社常務取締役 平成21年6月 同社代表取締役専務 平成22年10月 住友商事(株)リテイル&ウェルネス事業部部長付(ドラッグラインリーダー) 平成22年12月 当社取締役(現任) 平成23年2月 住友商事(株)リテイル&ウェルネス事業部長(現任)	(注)4	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役		六本木 常男	昭和21年10月19日生	平成7年3月 当社入社 平成9年12月 当社取締役第2店舗運営部長 平成11年10月 当社取締役販売事業部長 平成14年3月 当社取締役退任 平成14年4月 当社総務部長 平成15年12月 当社常勤監査役(現任)	(注)5	0
監査役		岩崎 昇	昭和8年10月3日生	昭和32年4月 (有)岩崎経営研究所入所 昭和37年12月 同所専務取締役 昭和62年12月 当社監査役(現任) 平成3年11月 (有)岩崎経営研究所代表取締役 (現任)	(注)6	55
監査役		小野瀬 有	昭和22年11月11日生	昭和44年10月 司法試験合格 昭和47年3月 司法研修所修了 昭和47年4月 明治大学法学部助手 昭和50年4月 同専任講師 昭和53年4月 弁護士登録 平成16年12月 当社監査役(現任)	(注)6	0
監査役		佐世 芳	昭和26年8月16日生	昭和51年4月 中小企業金融公庫入庫 昭和59年4月 司法研修所入所 昭和61年3月 同修了 昭和61年4月 弁護士登録 平成20年12月 当社監査役(現任)	(注)6	-
計						2,445

- (注) 1. 代表取締役社長岩崎裕文は代表取締役会長岩崎悦久の実子であり、監査役岩崎昇は同会長の義兄であります。
2. 監査役岩崎昇、小野瀬有、佐世芳は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
3. 取締役織茂潤二は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
4. 平成24年12月21日開催の定時株主総会の終結の時から1年間。
5. 平成23年12月16日開催の定時株主総会の終結の時から4年間。
6. 平成24年12月21日開催の定時株主総会の終結の時から4年間。

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社及び当社グループは、コーポレート・ガバナンスの強化を、株主をはじめとするすべてのステークホルダーに対して、経営の健全性や透明性、迅速性を高めることを通じて企業価値の最大化を図る上で重要な経営課題であると考
えております。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

- (a) 当社は監査役会設置会社であります。当該体制の下、経営に対する監督機能の向上、コーポレート・ガバナンス強化のため、社外取締役及び社外監査役の登用を重視しております。
- (b) 経営上の重要事項の意思決定機関である取締役会は、平成24年12月21日現在8名の取締役（うち1名は社外取締役）で構成され、毎月1回の定時取締役会のほか、必要に応じて臨時取締役会を開催しております。経営の基本方針、法令で定められた事項その他の経営に関する重要事項の決定、社内各部門の進捗状況をレビューすることにより、業務執行の監督を遂行しております。
- (c) 監査役会は、取締役の業務執行を監査する重要な機関です。定時監査役会を原則として毎月1回、必要に応じて臨時監査役会を開催しております。監査役会は、4名のうち3名が社外監査役で構成されており、原則すべての取締役会及びその他社内会議に随時出席し、経営全般に対する監督機能を担っております。
- (d) 監査役会とは別に、統括経営監査部（2名）により、会社業務が規程どおりに組織的に行われていることを確認し、会社の財産及び業務を適正に把握し、経営の合理化及び能率の増進に寄与しております。また、必要に応じて監査役及び会計監査人と連絡調整を行っております。
- (e) 経営の重要な業務執行を意思統一する機関として、経営会議を設置しております。代表取締役社長が議長となり、原則として月2回開催し、営業成績の報告、課題の審議・決定、月次報告とその承認などを行っております。重要経営課題については取締役会に提案し、決定する役割を担っております。
- (f) 重要な法的判断及びコンプライアンスに関する事項については、外部弁護士に相談し、必要な検討を実施しております。法律事務所と顧問契約を結び、法的に係わる問題全般のアドバイスを受けております。また、契約書など法定書類はその都度確認し、コンプライアンス確保に務めております。

内部統制システム及びリスクマネジメント体制の整備の状況

取締役・使用人の職務執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制、その他会社の業務の適正を確保するための体制の概要は以下のとおりであります。

イ． 取締役・使用人の職務執行が法令・定款に適合することを確保するための体制

- (a) 当社は「企業理念」を定め、会議・朝礼等において日常的に全社員が反復・唱和してその実践に努めております。
- (b) 全役職員に配布している「社員心得」により、社内ルール遵守の徹底を図っております。
- (c) 「行動規範」を制定し、代表取締役社長が繰り返しその精神を全役職員に伝えるとともに、特に外部折衝を主な仕事としている仕入部門・開発部門・営業管理の担当者及び本部の役員・幹部職員からは、毎年度はじめに行動規範に基づく誓約書を徴収し、法令遵守及び社会倫理の遵守を企業活動の前提としております。
- (d) 代表取締役社長直轄下の統括経営監査部に加え、コンプライアンス委員会（以下「委員会」という）を設け、その委員長としてコンプライアンス担当取締役（以下「委員長」という）を任命して、全社横断的なコンプライアンス体制の整備及び問題点の把握に努めております。委員会は、各業務担当取締役及び管理部門ならびに企画部門の部門長（以下「コンプライアンスリスクマネジメント責任者」または「責任者」という）をもって構成しております。委員会はコンプライアンス上の重要な問題を審議し、その結果を取締役に報告しております。責任者は、各業務部門固有のコンプライアンスリスクを分析し、その対策を具体化しております。
- (e) コンプライアンスリスクマネジメント責任者及び監査役が、コンプライアンス上の問題を発見した場合は速やかに統括経営監査部ならびに委員長に報告する体制を構築しております。また、従業員が直接コンプライアンス委員会に報告することを可能とするコンプライアンス・ホットラインを設け、報告・通知を受けた委員会は、その内容を調査し、再発防止策を当該部門の責任者と協議の上、決定し、全社的に再発防止策を実施しております。
- (f) 職員の法令・定款違反行為については委員会から人事部に処分を求め、役員の法令・定款違反については委員会が取締役に具体的な処分を答申しております。

ロ．取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する事項

- (a) 代表取締役社長は、取締役の職務執行に係る情報の保存及び管理につき、全社的に統括する責任者（文書管理責任者）を取締役の中から任命し、文書規程に従い、職務執行に係る情報または電磁的媒体に記録し、保存しております。
- (b) 取締役及び監査役は文書規程により、これらの文書等を常時閲覧できるものとしております。
- (c) 文書規程の改定については、監査役会の同意を得るものとしております。

ハ．損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- (a) 代表取締役社長は、コンプライアンス担当取締役の任命を行い、リスク管理規程の策定にあたらせております。当規程において、リスクカテゴリーごとの責任部署を定め、グループ全体のリスクを網羅的・統括的に管理し、リスク管理体制を明確化しております。
- (b) 統括経営監査部は、各部署ごとのリスク管理状況を監査しております。
- (c) 統括経営監査部は、内部調査の結果を報告し、監査役会の同意を得るものとしております。

二．取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- (a) 当社は、定例の取締役会を毎月1回開催し、重要事項の決定ならびに取締役の業務執行状況の監督等を行っております。
- (b) 取締役会の機能を強化し、経営効率を向上させるため、取締役・主要部長を構成員とする経営会議を設置し、原則として毎月2回開催し、業務執行に関する基本的事項及び重要事項に係る意思決定を機動的に行っております。
- (c) 取締役及び社員の共有する事業目標として、取締役会は中期経営計画の策定、中期経営計画に基づく事業部門ごとの業績目標と予算の設定を行い、継続的に業績管理を実施しております。

ホ．当社及び子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制

- (a) 当社及び当社グループにおける内部統制の構築を目指し、当社グループ全体の内部統制に関する担当部署として、総合企画室を定め、当社及び当社グループ全体の内部統制に関する協議、情報の共有化、指示・要請の伝達等が効率的に行なわれるシステムを含む体制を構築しております。
- (b) 当社取締役、事業部長、部長及び当社グループの社長は、各部門の業務執行の適正を確保する内部統制の確立と運用の権限、責任を有しております。
- (c) 当社グループの各代表取締役は、内部統制管理の進捗状況を定期的に当社経営会議において報告しております。

ヘ．監査役がその補助すべき使用人を置くことを求めた場合における、当該使用人に関する体制ならびにその使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査役は、統括経営監査部所属の職員に監査業務に必要な事項を命令することができるものとし、監査役より監査業務に必要な命令を受けた職員は、その命令に関して、取締役・統括経営監査部長等の指揮命令を受けないものとしております。

ト．取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制

- (a) 取締役または使用人は、監査役会に対して、法定の事項に加え、当社及び当社グループに重大な影響を及ぼす事項、内部監査の実施状況、コンプライアンス・ホットラインによる通報状況及びその内容を速やかに報告する体制を整備しております。
- (b) 報告の方法（報告者、報告受理、報告時期等）については、取締役と監査役会との協議により決定しております。

チ．その他監査役の監査が実効的に行なわれることを確保するための体制

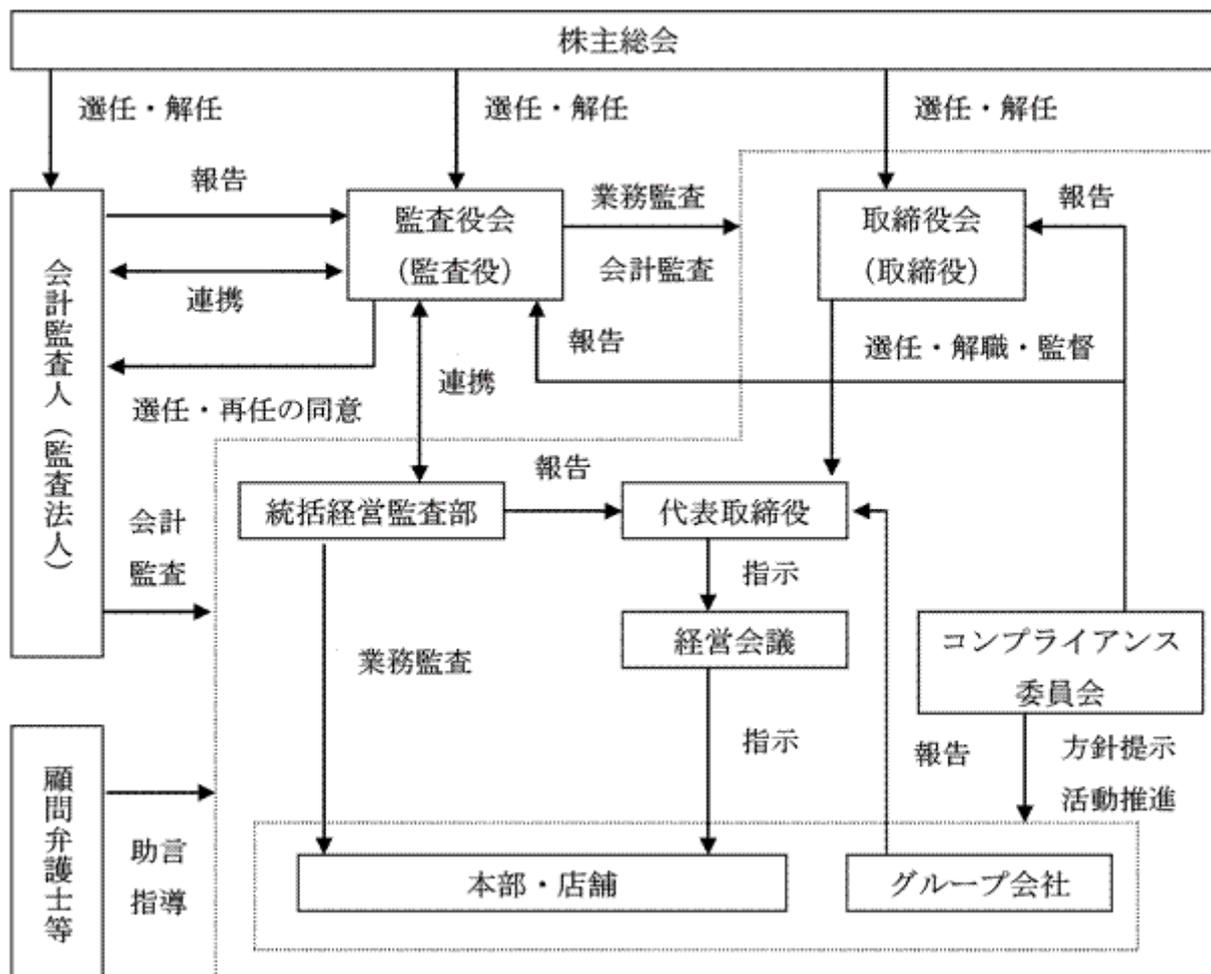
- (a) 監査役は、当社の意思決定機関である経営会議ならびに取締役会に出席し、必要に応じて質問をするなどその運営・執行状況を直接的に確認しております。
- (b) 監査役会は、各事業執行取締役及び重要な各個人からの個別ヒアリングの機会を設けております。
- (c) 監査役会と代表取締役、監査法人それぞれの間で定期的に意見交換会を設定しております。

リ、反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

当社及び当社グループは反社会的勢力との一切の関係を遮断することに努めております。

反社会的勢力に対する担当部署を総合企画室にし、従業員への啓蒙活動、各部署との連携をとるほか、警察・弁護士等外部機関と連携して対応する体制を整備しております。また、埼玉特殊暴力防止対策協議会に参加し、研修・指導を受けるとともに、各参加企業との情報交換に努めております。

当社の業務執行・経営の監視の仕組み、内部統制システムとリスク管理体制の整備の状況の関係図は次のとおりです。



内部監査及び監査役監査の状況

当社の統括経営監査部による内部監査は、当社グループの業務上の諸活動が経営方針、各種法令及び規則規定に基づき適正に運営されているかを監査し、経営の改善に資することを目的としております。内部監査は平成24年12月21日現在2名体制で業務を遂行しており、業務監査及び、社長からの特命事項の監査等を行っております。監査結果は、社長に報告するとともに適切な助言・勧告を行っております。

監査役につきましては、取締役会をはじめその他重要な会議に出席するほか、取締役の職務執行の適法性、財産の状況等にとどまらず、取締役の業務全般について監査を行っております。平成24年12月21日現在常勤監査役1名及び非常勤監査役3名の計4名（うち3名は社外監査役）となっております。

なお、監査役は会計監査人と監査計画、監査実施状況等について定期的な情報交換を行うとともに、必要に応じて情報交換を実施しております。

統括経営監査部につきましては必要に応じて監査役、会計監査人と情報交換し、効率的な監査を実施しています。

会計監査の状況

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は以下のとおりであります。

業務を執行した公認会計士の氏名	所属する会計事務所
小笠原 直 入澤 雄太	監査法人アヴァンティア 監査法人アヴァンティア

なお、監査業務にかかる補助者は、公認会計士4名、その他4名であります。

社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は1名、社外監査役は3名を選任しております。

当社は、社外取締役または社外監査役を選任するための当社からの独立性に関する基準または方針を明文化したものはありませんが、その職業及び過去の職歴に照らし、独立性が保持できる有識者を選任しております。

社外取締役及び社外監査役と当社とは、重要な人的関係・資本的関係または取引関係その他の利害関係はありません。社外取締役及び社外監査役は、取締役会及び経営関連の重要な諸会議に出席し、重要な書類を閲覧するなど、取締役の職務執行を監視するとともに、社外取締役、各社外監査役の専門的な立場からの助言や情報提供を行っており、当社の企業統治において重要な役割を果たしております。

社外取締役 織茂潤二は、当事業年度開催の取締役会19回のうち16回に出席し、現在住友商事㈱リテイル&ウェルネス事業部長として、豊富な実績と見識を有しており、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。

社外監査役 岩崎昇は、当事業年度開催の取締役会19回のうち12回、監査役会10回のうち全回に出席し、税理士の資格を有し、財務及び会計に関する相当程度の知見を有していることに加えて、経営に関する見識を有していることから社外監査役に選任しており、豊富な実績と見識に基づき意見を述べるなど、積極的な助言・提言を行っております。

社外監査役 小野瀬有は、当事業年度開催の取締役会19回のうち8回、監査役会10回のうち8回に出席し、弁護士としての専門的立場で経営者の職務遂行の適法性及び妥当性を客観的、中立的に監視できると考え、社外監査役に選任しており、豊富な実績と見識に基づき意見を述べるなど、積極的な助言・提言を行っております。

社外監査役 佐世芳は、当事業年度開催の取締役会19回のうち11回、監査役会10回のうち全回に出席し、弁護士としての専門的な立場で経営者の職務遂行の適法性及び妥当性を客観的、中立的に監視できると考え、社外監査役に選任しており、豊富な実績と見識に基づき意見を述べるなど、積極的な助言・提言を行っております。

役員報酬等

イ．役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	142	142	-	-	-	3
監査役 (社外監査役を除く)	5	5	-	-	-	1
社外役員	4	4	-	-	-	4

ロ．提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

ハ．使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

総額(百万円)	対象となる役員(人)	内容
47	4	使用人としての給与であります。

ニ．役員の報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

役員の報酬等の額は、株主総会が決定する報酬総額の限度内において、世間水準及び従業員給与との均衡を考慮して取締役会で決定しております。また、退任時に退職慰労金を支給することとし、各役員の役位係数及び在任年数等に基づき支給額を算定しております。

責任限定契約の内容の概要

当社は、会社法第427条第1項の規定に基づき、社外取締役及び社外監査役との間に、任務を怠ったことによる損害賠償責任を限定する契約を締結することができる旨定款に定めております。

また、当該契約に基づく責任の限度額は、法令が規定する額とする旨も定款に定めております。

取締役の定数

当社の取締役は、15名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨も定款に定めております。

剰余金の配当等の決定機関

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めのある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める旨定款に定めております。これは、剰余金の配当等を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

株式の保有状況

イ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 9 銘柄

貸借対照表計上額の合計額 214百万円

なお、当事業年度において、当社が保有する保有目的が純投資目的である投資株式はありません。

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
株式会社武蔵野銀行	57,500	160	取引関係の強化のため
株式会社りそなホールディングス	62,100	23	"
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	62,000	21	"
株式会社東和銀行	131,000	12	"
アフラック・インコーポレーテッド	1,397	3	"
大正製薬株式会社	1,000	1	"

当事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
株式会社武蔵野銀行	57,500	138	取引関係の強化のため
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	62,000	22	"
株式会社りそなホールディングス	62,100	19	"
株式会社東和銀行	131,000	9	"
アフラック・インコーポレーテッド	1,606	5	"
大正製薬ホールディングス株式会社	300	1	"

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	29	-	29	-
連結子会社	-	-	-	-
計	29	-	29	-

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針としましては、当社の規模・特性、予定される監査業務の日数、監査業務に係る人員数等を総合的に勘案し、監査公認会計士と協議の上、監査役会の同意を得て決定しております。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成23年10月1日から平成24年9月30日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成23年10月1日から平成24年9月30日まで）の財務諸表について、監査法人アヴァンティアにより監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みとして、当社は、会計基準等の内容を適正に把握し、正確な財務諸表を作成するため、会計に関するセミナーに積極的に参加するなど、必要な知識の習得に努めております。

1【連結財務諸表等】
(1)【連結財務諸表】
【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当連結会計年度 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,081	3,716
売掛金	70	46
商品	1,590	1,659
貯蔵品	9	11
繰延税金資産	508	749
その他	904	1,339
流動資産合計	5,164	7,523
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	15,010	16,566
減価償却累計額	8,258	8,884
建物及び構築物（純額）	1 6,752	1 7,682
機械装置及び運搬具	265	648
減価償却累計額	155	159
機械装置及び運搬具（純額）	1 110	1 488
土地	1 8,661	1 8,652
建設仮勘定	567	1,063
その他	3,326	4,047
減価償却累計額	2,384	2,844
その他（純額）	941	1,202
有形固定資産合計	17,032	19,089
無形固定資産	440	353
投資その他の資産		
投資有価証券	1 240	1 264
長期貸付金	338	473
差入保証金	6,648	7,268
賃貸不動産	603	533
減価償却累計額	157	159
賃貸不動産（純額）	446	373
繰延税金資産	1,413	1,162
その他	646	787
貸倒引当金	78	68
投資その他の資産合計	9,655	10,261
固定資産合計	27,127	29,704
資産合計	32,292	37,227

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当連結会計年度 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1 4,138	1 7,842
短期借入金	2 100	2 150
1年内返済予定の長期借入金	1 958	1 847
未払費用	1,413	1,985
未払法人税等	435	711
ポイント引当金	574	634
賞与引当金	399	382
その他	471	795
流動負債合計	8,491	13,348
固定負債		
長期借入金	1 1,942	1 1,256
長期預り保証金	1,649	1,573
転貸損失引当金	156	203
退職給付引当金	776	825
役員退職慰労引当金	648	700
資産除去債務	315	456
その他	21	19
固定負債合計	5,509	5,035
負債合計	14,001	18,384
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,660	2,660
資本剰余金	2,856	2,856
利益剰余金	12,755	13,330
自己株式	1	1
株主資本合計	18,270	18,844
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8	18
その他の包括利益累計額合計	8	18
少数株主持分	12	16
純資産合計	18,291	18,843
負債純資産合計	32,292	37,227

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
売上高	82,877	80,254
売上原価	62,514	60,509
売上総利益	20,363	19,744
営業収入	1,201	1,195
営業総利益	21,565	20,940
販売費及び一般管理費		
役員報酬	222	211
給料及び賞与	7,551	7,274
賞与引当金繰入額	411	384
退職給付費用	89	77
役員退職慰労引当金繰入額	54	52
ポイント引当金繰入額	357	468
賃借料	3,861	3,765
その他	7,174	6,842
販売費及び一般管理費合計	19,724	19,076
営業利益	1,841	1,863
営業外収益		
受取利息	52	53
受取配当金	5	6
受取賃貸料	94	43
受取手数料	146	150
物品売却益	66	59
違約金収入	16	5
その他	89	95
営業外収益合計	472	412
営業外費用		
支払利息	39	24
支払手数料	6	5
その他	5	5
営業外費用合計	51	35
経常利益	2,262	2,241
特別利益		
固定資産売却益	2	-
関係会社株式売却益	116	-
転貸損失引当金戻入額	23	-
特別利益合計	142	-

	前連結会計年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
特別損失		
減損損失	4 71	4 228
固定資産除却損	2 27	2 54
固定資産売却損	3 294	3 3
投資有価証券評価損	19	-
転貸損失引当金繰入額	-	108
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	328	-
その他	16	-
特別損失合計	758	394
税金等調整前当期純利益	1,646	1,847
法人税、住民税及び事業税	703	1,073
法人税等調整額	260	11
法人税等合計	442	1,085
少数株主損益調整前当期純利益	1,203	762
少数株主利益	3	3
当期純利益	1,199	758

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
少数株主損益調整前当期純利益	1,203	762
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	18	26
その他の包括利益合計	18	26
包括利益	1,221	735
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,218	731
少数株主に係る包括利益	3	3

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	2,660	2,660
当期末残高	2,660	2,660
資本剰余金		
当期首残高	2,856	2,856
当期末残高	2,856	2,856
利益剰余金		
当期首残高	11,739	12,755
当期変動額		
剰余金の配当	183	183
当期純利益	1,199	758
当期変動額合計	1,016	574
当期末残高	12,755	13,330
自己株式		
当期首残高	1	1
当期変動額		
自己株式の取得	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	1	1
株主資本合計		
当期首残高	17,254	18,270
当期変動額		
剰余金の配当	183	183
当期純利益	1,199	758
自己株式の取得	0	0
当期変動額合計	1,016	574
当期末残高	18,270	18,844
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	9	8
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	18	26
当期変動額合計	18	26
当期末残高	8	18
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	9	8
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	18	26
当期変動額合計	18	26
当期末残高	8	18

	前連結会計年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
少数株主持分		
当期首残高	8	12
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	3	3
当期変動額合計	3	3
当期末残高	12	16
純資産合計		
当期首残高	17,253	18,291
当期変動額		
剰余金の配当	183	183
当期純利益	1,199	758
自己株式の取得	0	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	22	22
当期変動額合計	1,038	551
当期末残高	18,291	18,843

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,646	1,847
減価償却費	1,311	1,366
減損損失	71	228
賞与引当金の増減額（は減少）	11	17
退職給付引当金の増減額（は減少）	61	48
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	48	52
受取利息及び受取配当金	58	59
支払利息	39	24
関係会社株式売却損益（は益）	116	-
固定資産売却損益（は益）	292	3
固定資産除却損	27	54
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	328	-
売上債権の増減額（は増加）	20	35
たな卸資産の増減額（は増加）	0	71
仕入債務の増減額（は減少）	267	3,704
未払費用の増減額（は減少）	123	570
預り敷金及び保証金の増減額（は減少）	175	108
長期前払費用の増減額（は増加）	53	118
その他	287	105
小計	4,199	7,665
利息及び配当金の受取額	14	15
利息の支払額	38	20
法人税等の支払額	666	799
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,508	6,861
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	1,357	3,338
有形固定資産の売却による収入	140	5
無形固定資産の取得による支出	47	32
賃貸不動産の売却による収入	704	-
投資有価証券の取得による支出	13	50
貸付けによる支出	2	167
貸付金の回収による収入	232	33
差入保証金の差入による支出	191	1,306
差入保証金の回収による収入	639	609
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	1	172
保険積立金の積立による支出	10	33
保険積立金の解約による収入	0	-
その他	18	13
投資活動によるキャッシュ・フロー	97	4,295

	前連結会計年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	2,649	49
長期借入れによる収入	600	100
長期借入金の返済による支出	1,075	896
配当金の支払額	183	183
その他	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,308	931
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	103	1,635
現金及び現金同等物の期首残高	1,978	2,081
現金及び現金同等物の期末残高	² 2,081	² 3,716

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1．連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 3社

連結子会社の名称

彩裕フーズ㈱

マミーサービス㈱

㈱産直開発

(2) 非連結子会社の名称

マミーフーズ㈱

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は、小規模であり、総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2．持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の非連結子会社及び関連会社の数

該当事項はありません。

(2) 持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社の名称

マミーフーズ㈱

(持分法を適用していない理由)

持分法非適用会社は、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性が無いため、持分法の適用範囲から除外しております。

3．連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4．会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

ロ たな卸資産

(イ) 商品

(生鮮食品)

最終仕入原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

(生鮮食品を除く店舗の商品)

売価還元法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

(生鮮食品を除く物流センターの商品)

移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

(ロ) 貯蔵品 最終仕入原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物	3～35年
機械装置及び運搬具	6～10年
その他	3～8年

ロ 無形固定資産（リース資産を除く）

自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

ハ リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年9月30日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

ニ 長期前払費用

定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

イ 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

ロ ポイント引当金

販売促進を目的とするポイントカード制度により付与したポイントの使用に備えるため、未使用のポイント残高に対して、過去の使用実績率に基づき将来使用されると見込まれる金額を計上しております。

ハ 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、将来の支給見込額のうち当連結会計年度の負担額を計上しております。

ニ 転貸損失引当金

店舗転貸契約の残存期間に発生する損失に備えるため、支払義務のある賃料等総額から転貸による見込賃料収入総額を控除した金額を計上しております。

ホ 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務の見込額に基づき、計上しております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（9年）による定額法により、翌連結会計年度から費用処理することとしております。

ヘ 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な現金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクシカ負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(5) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理方法

消費税等の会計処理は税抜方式を採用しております。

【会計方針の変更】

該当事項はありません。

【未適用の会計基準等】

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日）の公表

（1）概要

本会計基準等は財務報告を改善する観点及び国際的な動向を踏まえ、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の処理方法、退職給付債務及び勤務費用の計算方法ならびに開示の拡充を図っております。

（2）適用予定日

平成25年10月1日に開始する連結会計年度の期末より適用を予定しております。

（3）当会計基準等の適用による影響

連結財務諸表作成時において連結財務諸表に与える影響は、現時点において評価中であります。

【表示方法の変更】

該当事項はありません。

【会計上の見積りの変更】

該当事項はありません。

【追加情報】

（会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用）

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当連結会計年度 (平成24年9月30日)
建物及び構築物	970百万円	893百万円
機械装置及び運搬具	0	0
土地	2,160	2,160
無形固定資産	1	1
投資有価証券	13	13
計	3,145	3,068

上記のうち工場財団設定分

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当連結会計年度 (平成24年9月30日)
建物及び構築物	23百万円	21百万円
機械装置及び運搬具	0	0
土地	122	122
計	145	143

担保付債務

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当連結会計年度 (平成24年9月30日)
買掛金	419百万円	485百万円
1年内返済予定の長期借入金	898	724
長期借入金	1,749	1,073
計	3,067	2,283

上記のうち工場財団設定分

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当連結会計年度 (平成24年9月30日)
長期借入金	500百万円	500百万円
計	500	500

2 当座貸越契約

運転資金の効率的な調達を行うため、13取引金融機関と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく借入未実行残高は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当連結会計年度 (平成24年9月30日)
当座貸越契約極度額	9,900百万円	9,650百万円
借入実行残高	100	150
差引額	9,800	9,500

(連結損益計算書関係)

1 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成22年10月1日 至平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自平成23年10月1日 至平成24年9月30日)
機械装置及び運搬具	0百万円	- 百万円
有形固定資産(その他)	0	-
賃貸不動産	1	-
計	2	-

2 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成22年10月1日 至平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自平成23年10月1日 至平成24年9月30日)
建物及び構築物	5百万円	7百万円
有形固定資産(その他)	9	23
無形固定資産	-	8
退店撤去費用	11	13
計	27	54

3 固定資産売却損の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成22年10月1日 至平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自平成23年10月1日 至平成24年9月30日)
土地	- 百万円	3百万円
賃貸不動産	294	-

4 減損損失

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

前連結会計年度（自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日）

用途	種類	場所
営業店舗	土地	マミーマートTOP籠原店 (埼玉県熊谷市)

当社グループは、営業店舗及び賃貸資産ならびに遊休資産については個別物件単位で資産のグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、営業店舗に係る一部土地について地価の下落が見られたため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（71百万円）として特別損失に計上いたしました。

なお、当該資産の回収可能価額は正味売却価額により測定しております。

当連結会計年度（自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日）

用途	種類	場所
営業店舗	建物及び構築物	マミーマート千代田店 (埼玉県坂戸市)
営業店舗	建物及び構築物	マミーマート岩槻城南店 (埼玉県さいたま市)
営業店舗	建物及び構築物	マミーマート杉戸店 (埼玉県北葛飾郡杉戸町)
営業店舗	建物及び構築物	マミーマート狭山ヶ丘店 (埼玉県所沢市)
営業店舗	建物及び構築物	マミーマート神明町店 (埼玉県川越市)
賃貸不動産	賃貸不動産	上福岡 (埼玉県上福岡市)
賃貸不動産	賃貸不動産	松本町 (埼玉県東松山市)

当社グループは、営業店舗及び賃貸資産ならびに遊休資産については個別物件単位で資産のグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、継続的な地価の下落及び資産グループ単位の収益を踏まえて検証した結果、一部の営業店舗及び賃貸不動産については、将来キャッシュ・フローによって当該資産の帳簿価額を全額回収できる可能性が低いと判断し、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（228百万円）として特別損失に計上いたしました。その内訳は、建物及び構築物120百万円及び賃貸不動産107百万円であります。

なお、当該資産の回収可能価額は正味売却価額により測定しており、賃貸不動産については不動産鑑定評価基準に基づいて自社が算定した金額により評価し、その他売却や他への転用が困難な資産は0円評価としております。

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金:

当期発生額	26百万円
組替調整額	-
税効果調整前	26
税効果額	0
その他有価証券評価差額金	26
その他の包括利益合計	26

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成22年10月1日至平成23年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式	10,796,793株	-	-	10,796,793株

2. 自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式	1,297株	77株	-	1,374株

(注)自己株式の増加は、単元未満株式の買取によるものであります。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成22年11月12日 取締役会	普通株式	91百万円	8円50銭	平成22年9月30日	平成22年12月20日
平成23年5月13日 取締役会	普通株式	91百万円	8円50銭	平成23年3月31日	平成23年6月13日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の原資	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成23年11月14日 取締役会	普通株式	利益剰余金	91百万円	8円50銭	平成23年9月30日	平成23年12月19日

当連結会計年度(自平成23年10月1日至平成24年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式	10,796,793株	-	-	10,796,793株

2. 自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式	1,374株	64株	-	1,438株

(注)自己株式の増加は、単元未満株式の買取によるものであります。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成23年11月14日 取締役会	普通株式	91百万円	8円50銭	平成23年9月30日	平成23年12月19日
平成24年5月15日 取締役会	普通株式	91百万円	8円50銭	平成24年3月31日	平成24年6月11日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の原資	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成24年11月14日 取締役会	普通株式	利益剰余金	91百万円	8円50銭	平成24年9月30日	平成24年12月25日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度(自平成22年10月1日至平成23年9月30日)

1 株式の売却により連結子会社でなくなった会社の資産及び負債の主な内訳

株式の全部売却により(株)ギガ物産が連結子会社でなくなったことに伴い、連結除外した資産及び負債の内訳ならびに株式売却価額と売却による支出は次のとおりであります。

流動資産	496百万円
固定資産	296百万円
流動負債	694百万円
固定負債	193百万円
株式売却益	116百万円
株式の売却価額	21百万円
現金及び現金同等物	194百万円
差引：売却による支出	172百万円

2 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自平成22年10月1日 至平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自平成23年10月1日 至平成24年9月30日)
現金及び預金勘定	2,081百万円	3,716百万円
現金及び現金同等物	2,081	3,716

(リース取引関係)

(借主側)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主にスーパーマーケット事業における店舗設備であります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年9月30日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度(平成23年9月30日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械装置及び運搬具	152	132	19
有形固定資産その他	222	180	41
合計	374	313	60

(単位：百万円)

	当連結会計年度(平成24年9月30日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械装置及び運搬具	59	56	3
有形固定資産その他	139	135	3
合計	199	192	6

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当連結会計年度 (平成24年9月30日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	57	7
1年超	7	0
合計	64	7

(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額、支払利息相当額及び減損損失

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
支払リース料	219	57
リース資産減損勘定の取崩額	76	-
減価償却費相当額	130	53
支払利息相当額	4	1

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(5) 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資計画に照らして、必要な資金（主に銀行借入）を調達しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

投資有価証券は主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

差入保証金は、主に店舗の賃貸契約における敷金および保証金であります。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが3ヶ月以内の支払期日であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

イ 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、営業債権については、債権管理規程に従い、取引先相手ごとに期日管理および残高管理を行うとともに、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の債権管理規程に準じて、同様の管理を行っております。

ロ 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は、金利等の変動リスクに対して、長期借入と短期借入を併用管理することにより、管理を行っております。

ハ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払を実行できなくなるリスク）の管理

当社は各担当部署からの報告に基づき、経理部門において適時に資金繰計画を作成するなどにより、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2.参照）。

前連結会計年度（平成23年9月30日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	2,081	2,081	-
(2) 投資有価証券 その他有価証券	224	224	-
(3) 差入保証金 貸倒引当金()	4,158 78		
	4,080	4,024	56
資産計	6,385	6,329	56
(1) 買掛金	4,138	4,138	-
(2) 短期借入金	100	100	-
(3) 長期借入金	2,900	2,900	-
負債計	7,139	7,139	-

() 差入保証金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

当連結会計年度(平成24年9月30日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	3,716	3,716	-
(2) 投資有価証券 その他有価証券	198	198	-
(3) 差入保証金 貸倒引当金()	4,588 68		
	4,520	4,479	41
資産計	8,435	8,394	41
(1) 買掛金	7,842	7,842	-
(2) 短期借入金	150	150	-
(3) 長期借入金	2,104	2,104	-
負債計	10,096	10,096	-

() 差入保証金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1) 現金及び預金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

(3) 差入保証金

これらの時価については、将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標に基づく利率で割り引いた現在価値により算定しております。

負債

(1) 買掛金、(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期借入金

これらの時価は、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた金額とほぼ等しいと想定されることから、当該帳簿価額によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当連結会計年度 (平成24年9月30日)
非上場株式	15	15
満期保有目的以外の債券	-	50
差入保証金	2,490	2,680

非上場株式及び満期保有目的以外の債券については、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(2) 投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。また、差入保証金のうち敷金については、市場価格がなく、かつ、契約等において退去日が確定していないため将来キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため「(3) 差入保証金」に含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成23年9月30日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
(1) 現金及び預金	2,081	-	-	-
(2) 差入保証金	532	1,599	1,224	723
合計	2,613	1,599	1,224	723

当連結会計年度(平成24年9月30日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
(1) 現金及び預金	3,716	-	-	-
(2) 投資有価証券	-	-	50	-
(3) 差入保証金	482	1,630	1,260	1,146
合計	4,199	1,630	1,310	1,146

4. 社債、新株予約権付社債、長期借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表「借入金等明細表」をご参照下さい。

(有価証券関係)

1. 其他有価証券

前連結会計年度(平成23年9月30日)

	種類	連結貸借対照表計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	175	165	9
	小計	175	165	9
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	48	50	1
	小計	48	50	1
合計		224	216	8

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 15百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表には含めておりません。

当連結会計年度(平成24年9月30日)

	種類	連結貸借対照表計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	17	14	3
	小計	17	14	3
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	180	202	21
	小計	180	202	21
合計		198	216	18

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 15百万円)及び満期保有目的以外の債券(連結貸借対照表計上額 50百万円)については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表には含めておりません。

2. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度において、有価証券について19百万円(其他有価証券の株式19百万円)減損処理を行っております。

当連結会計年度において、減損処理は行っておりません。

なお、減損処理に当たっては期末における時価が取得原価に比べ30%以上下落した場合には、時価が著しく下落したものと判断してすべて減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

当社グループはデリバティブ取引を全く利用していないため該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社グループは、確定拠出年金制度及び退職一時金制度を併用しております。

2. 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当連結会計年度 (平成24年9月30日)
(1) 退職給付債務(百万円)	835	877
(2) 年金資産(百万円)	-	-
(3) 未積立退職給付債務(1) + (2)(百万円)	835	877
(4) 未認識数理計算上の差異(百万円)	58	51
(5) 未認識過去勤務債務(債務の減額)(百万円)	-	-
(6) 連結貸借対照表計上額純額(3) + (4) + (5)(百万円)	776	825
(7) 前払年金費用(百万円)	-	-
(8) 退職給付引当金(6) - (7)(百万円)	776	825

(注) 一部の子会社は退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3. 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自平成22年10月1日 至平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自平成23年10月1日 至平成24年9月30日)
退職給付費用(百万円)	151	138
(1) 勤務費用(百万円)	66	58
(2) 利息費用(百万円)	7	8
(3) 期待運用収益(減算)(百万円)	-	-
(4) 数理計算上の差異の費用処理額(百万円)	15	11
(5) 確定拠出年金への掛金支払額(百万円)	61	60

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法

期間定額基準

(2) 割引率

前連結会計年度 (自平成22年10月1日 至平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自平成23年10月1日 至平成24年9月30日)
1.0%	1.0%

(3) 期待運用収益率

前連結会計年度 (自平成22年10月1日 至平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自平成23年10月1日 至平成24年9月30日)
- %	- %

(4) 数理計算上の差異の処理年数

9年(各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。)

(ストック・オプション等関係)

当社グループはストック・オプション等を全く利用していないため該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当連結会計年度 (平成24年9月30日)
繰延税金資産(流動)		
ポイントカード損金不算入額	241百万円	248百万円
賞与引当金繰入限度超過額	162	144
開店前経費	-	126
未払事業税	30	58
その他	75	172
計	508	749
繰延税金資産(固定)		
退職給付引当金繰入限度超過額	314	292
役員退職慰労引当金繰入限度超過額	261	233
減価償却超過額	146	148
減損損失	512	444
資産除去債務	118	161
繰越欠損金	37	-
その他	392	216
小計	1,784	1,497
評価性引当額	365	331
計	1,418	1,166
繰延税金負債(固定)		
資産除去債務に係る除去費用	4	3
計	4	3
繰延税金資産の純額	1,922	1,911

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当連結会計年度 (平成24年9月30日)
法定実効税率	40.4%	40.4%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.3	0.5
評価性引当額の増減	24.0	1.6
住民税均等割	5.7	4.6
子会社株式売却損益の連結修正	2.3	-
税率変更による影響	-	11.8
その他	2.2	0.2
税効果会計適用後の法人税等の負担率	26.9%	58.7%

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の40.4%から平成24年10月1日に開始する連結会計年度から平成26年10月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については37.8%に、平成27年10月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異については35.4%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は218百万円減少し、当連結会計年度に計上された法人税等調整額が218百万円、その他有価証券評価差額金が0百万円、それぞれ増加しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

主に店舗用土地建物の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から賃借期間終了日まで(賃借期間は主に20年)と見積り、割引率は当該使用見込期間に対応する国債の利回りを使用して資産除去債務の金額を計算しております。

ハ 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自平成22年10月1日 至平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自平成23年10月1日 至平成24年9月30日)
期首残高(注)	341百万円	315百万円
見積りの変更による増加額	-	158
時の経過による調整額	5	5
資産除去債務の履行による減少額	-	22
その他増減額(は減少)	31	-
期末残高	315	456

(注) 前連結会計年度の「期首残高」は「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号平成20年3月31日)を適用したことによる期首時点における残高であります。

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上していないもの

当社グループは、主に店舗用土地建物の不動産賃貸借契約に基づき、賃借した土地建物の返還時における原状回復に係る債務を有しておりますが、当該債務の一部については、関連する賃借資産の賃借期間が明確でなく、将来店舗を閉鎖する予定もないことから、資産除去債務を合理的に見積ることができません。そのため、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

(賃貸等不動産関係)

当社では、埼玉県を中心に賃貸商業施設及び賃貸住宅を有しております。

前連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は94百万円(営業外収益に計上)、転貸損失引当金戻入額は23百万円(特別利益に計上)であります。

当連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は43百万円(営業外収益に計上)、転貸損失引当金繰入額は108百万円(特別損失に計上)、減損損失は107百万円は(特別損失に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (自平成22年10月1日 至平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自平成23年10月1日 至平成24年9月30日)
連結貸借対照表計上額		
期首残高	1,447	454
期中増減額	992	80
期末残高	454	373
期末時価	387	377

- (注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。
2. 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な減少額は土地の売却によるもの(994百万円)であります。当連結会計年度の主な減少額は減損損失の計上によるもの(107百万円)であります。
3. 期末の時価は、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額(指標等を用いて調整を行ったものを含む。)であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務諸表が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、販売する商品・提供するサービスの内容の類似性に基づき組織・管理されている報告可能な「スーパーマーケット事業」を報告セグメントとしております。

「スーパーマーケット事業」は、生鮮食品を中心に、加工食品・惣菜・日用雑貨等の販売を主体とするものであります。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自平成22年10月1日至平成23年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント スーパーマーケット事業	その他 (注1)	合計	調整額	連結財務諸表 計上額(注2)
売上高					
外部顧客への売上高	82,215	661	82,877	-	82,877
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4	-	4	4	-
計	82,220	661	82,881	4	82,877
セグメント利益	1,837	3	1,841	-	1,841
セグメント資産	31,253	1,039	32,292	-	32,292
その他の項目					
減価償却費	1,201	109	1,311	-	1,311
有形固定資産及び無形固定資産 の増加額	1,404	0	1,405	-	1,405

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、温浴事業であります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント	その他 (注1)	合計	調整額	連結財務諸表 計上額(注2)
	スーパーマー ケット事業				
売上高					
外部顧客への売上高	79,581	673	80,254	-	80,254
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3	-	3	3	-
計	79,585	673	80,258	3	80,254
セグメント利益	1,844	18	1,863	-	1,863
セグメント資産	36,261	965	37,227	-	37,227
その他の項目					
減価償却費	1,267	98	1,366	-	1,366
有形固定資産及び無形固定資 産の増加額	3,360	10	3,371	-	3,371

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、温浴事業であります。
2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度（自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント	その他（注）	合計	調整額	連結財務諸表 計上額
	スーパーマ ケット事業				
減損損失	71	-	71	-	71

（注）「その他」の金額は温浴事業であります。

当連結会計年度（自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント	その他（注）	合計	調整額	連結財務諸表 計上額
	スーパーマ ケット事業				
減損損失	228	-	228	-	228

（注）「その他」の金額は温浴事業であります。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主等

前連結会計年度（自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	(株)つしま	埼玉県東松山市	144百万円	保険代理業務	(被所有)直接5.7%	-	土地の売却 (注2)	700百万円	-	-

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておりません。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

土地の譲渡価額については、不動産鑑定士の評価額に基づいて決定しております。

当連結会計年度（自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日）

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自平成22年10月1日 至平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自平成23年10月1日 至平成24年9月30日)
1株当たり純資産額 1,693円21銭	1株当たり純資産額 1,743円98銭
1株当たり当期純利益金額 111円14銭	1株当たり当期純利益金額 70円25銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成22年10月1日 至平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自平成23年10月1日 至平成24年9月30日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(百万円)	1,199	758
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(百万円)	1,199	758
普通株式の期中平均株式数(株)	10,795,442	10,795,391

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	100	150	0.7	-
1年以内に返済予定の長期借入金	958	847	0.9	-
1年以内に返済予定のリース債務	-	-	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	1,942	1,256	0.8	平成25年～28年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	-	-	-
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	3,000	2,254	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年以内における返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	612	597	33	-

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	20,738	40,432	60,306	80,254
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(百万円)	856	1,475	1,865	1,847
四半期(当期)純利益金額 (百万円)	393	705	891	758
1株当たり四半期(当期) 純利益金額(円)	36.49	65.33	82.58	70.25

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 または四半期純損失金額(円)	36.49	28.83	17.25	12.33

2【財務諸表等】
(1)【財務諸表】
【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年9月30日)	当事業年度 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,367	3,052
売掛金	39	29
商品	1,551	1,617
貯蔵品	4	6
前渡金	0	44
前払費用	383	405
関係会社短期貸付金	56	56
未収入金	547	902
繰延税金資産	459	693
その他	47	51
流動資産合計	4,457	6,859
固定資産		
有形固定資産		
建物	11,784	12,167
減価償却累計額	6,318	6,751
建物(純額)	5,465	5,415
構築物	1,520	1,567
減価償却累計額	1,049	1,151
構築物(純額)	470	415
機械及び装置	31	31
減価償却累計額	30	31
機械及び装置(純額)	0	0
車両運搬具	13	13
減価償却累計額	7	10
車両運搬具(純額)	5	3
工具、器具及び備品	3,098	3,565
減価償却累計額	2,206	2,642
工具、器具及び備品(純額)	891	923
土地	8,538	8,529
建設仮勘定	567	1,063
有形固定資産合計	15,940	16,351
無形固定資産		
借地権	43	43
ソフトウェア	256	205
電話加入権	11	11
ソフトウェア仮勘定	29	-
無形固定資産合計	341	261

	前事業年度 (平成23年9月30日)	当事業年度 (平成24年9月30日)
投資その他の資産		
投資有価証券	1 240	1 264
関係会社株式	130	130
出資金	0	0
長期貸付金	336	460
従業員に対する長期貸付金	2	1
関係会社長期貸付金	606	550
長期前払費用	481	589
差入保証金	6,461	7,094
保険積立金	156	188
賃貸不動産	1,376	2,707
減価償却累計額	733	754
賃貸不動産（純額）	1 643	1 1,952
繰延税金資産	1,391	1,134
貸倒引当金	115	115
投資その他の資産合計	10,333	12,251
固定資産合計	26,614	28,864
資産合計	31,072	35,724
負債の部		
流動負債		
買掛金	1, 4 4,386	1, 4 8,111
短期借入金	3 200	3 200
1年内返済予定の長期借入金	1 865	1 824
未払金	74	267
未払費用	1,245	1,742
未払法人税等	323	646
未払消費税等	106	42
前受金	104	104
預り金	93	145
ポイント引当金	574	634
賞与引当金	324	315
流動負債合計	8,299	13,034
固定負債		
長期借入金	1 1,906	1 1,243
長期預り保証金	1,649	1,574
転貸損失引当金	156	203
退職給付引当金	748	792
役員退職慰労引当金	564	606
資産除去債務	295	436
その他	21	19
固定負債合計	5,343	4,876
負債合計	13,643	17,910

	前事業年度 (平成23年9月30日)	当事業年度 (平成24年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,660	2,660
資本剰余金		
資本準備金	2,856	2,856
資本剰余金合計	2,856	2,856
利益剰余金		
利益準備金	220	220
その他利益剰余金		
任意積立金	9,161	9,161
繰越利益剰余金	2,523	2,934
利益剰余金合計	11,905	12,316
自己株式	1	1
株主資本合計	17,420	17,831
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	8	18
評価・換算差額等合計	8	18
純資産合計	17,429	17,813
負債純資産合計	31,072	35,724

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
売上高	78,267	79,434
売上原価		
商品期首たな卸高	1,485	1,551
当期商品仕入高	60,696	61,845
合計	62,181	63,396
商品期末たな卸高	1,551	1,617
商品売上原価	60,630	61,779
売上総利益	17,637	17,655
営業収入	1,157	1,195
営業総利益	18,794	18,851
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	789	908
消耗品費	727	501
車両費	70	67
役員報酬	151	152
給料及び賞与	6,051	6,005
賞与引当金繰入額	324	315
退職給付費用	77	73
役員退職慰労引当金繰入額	41	41
福利厚生費	678	684
賃借料	3,572	3,690
減価償却費	1,132	1,176
水道光熱費	1,007	1,167
ポイント引当金繰入額	357	468
その他	2,319	2,025
販売費及び一般管理費合計	17,301	17,278
営業利益	1,493	1,573
営業外収益		
受取利息	73	66
受取配当金	5	6
受取賃貸料	112	8
受取手数料	146	153
物品売却益	66	59
違約金収入	16	5
その他	61	75
営業外収益合計	482	374
営業外費用		
支払利息	34	24
支払手数料	6	5
その他	13	5
営業外費用合計	55	35

	前事業年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
経常利益	1,921	1,911
特別利益		
固定資産売却益	1	-
貸倒引当金戻入額	51	-
関係会社株式売却益	21	-
転貸損失引当金戻入額	23	-
特別利益合計	98	-
特別損失		
減損損失	4 71	4 228
固定資産除却損	2 27	2 23
固定資産売却損	3 294	3 3
投資有価証券評価損	19	-
転貸損失引当金繰入額	-	108
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	290	-
特別損失合計	704	363
税引前当期純利益	1,315	1,548
法人税、住民税及び事業税	544	931
法人税等調整額	235	22
法人税等合計	308	953
当期純利益	1,006	594

【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	2,660	2,660
当期末残高	2,660	2,660
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	2,856	2,856
当期末残高	2,856	2,856
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	220	220
当期末残高	220	220
その他利益剰余金		
任意積立金		
当期首残高	9,161	9,161
当期末残高	9,161	9,161
繰越利益剰余金		
当期首残高	1,700	2,523
当期変動額		
剰余金の配当	183	183
当期純利益	1,006	594
当期変動額合計	822	410
当期末残高	2,523	2,934
利益剰余金合計		
当期首残高	11,083	11,905
当期変動額		
剰余金の配当	183	183
当期純利益	1,006	594
当期変動額合計	822	410
当期末残高	11,905	12,316
自己株式		
当期首残高	1	1
当期変動額		
自己株式の取得	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	1	1
株主資本合計		
当期首残高	16,598	17,420
当期変動額		
剰余金の配当	183	183
当期純利益	1,006	594
自己株式の取得	0	0
当期変動額合計	822	410
当期末残高	17,420	17,831

	前事業年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	9	8
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	18	26
当期変動額合計	18	26
当期末残高	8	18
純資産合計		
当期首残高	16,588	17,429
当期変動額		
剰余金の配当	183	183
当期純利益	1,006	594
自己株式の取得	0	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	18	26
当期変動額合計	841	383
当期末残高	17,429	17,813

【重要な会計方針】

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 商品

（生鮮食品）

最終仕入原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

（生鮮食品を除く店舗の商品）

売価還元法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

（生鮮食品を除く物流センターの商品）

移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

(2) 貯蔵品 最終仕入原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	3～35年
構築物	10～15年
機械及び装置	6～10年
車両運搬具	6年
工具、器具及び備品	3～8年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年9月30日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(4) 長期前払費用

定額法を採用しております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) ポイント引当金

販売促進を目的とするポイントカード制度により付与したポイントの使用に備えるため、未使用のポイント残高に対して、過去の使用実績率に基づき将来使用されると見込まれる金額を計上しております。

(3) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、将来の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

(4) 転貸損失引当金

店舗転貸契約の残存期間に発生する損失に備えるため、支払義務のある賃料等総額から転貸による見込賃料収入総額を控除した金額を計上しております。

(5) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、計上しております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（9年）による定額法により、翌事業年度から費用処理することとしております。

(6) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため内規に基づく期末要支給額を計上しております。

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式を採用しております。

【会計方針の変更】

該当事項はありません。

【表示方法の変更】

該当事項はありません。

【会計上の見積りの変更】

該当事項はありません。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産

	前事業年度 (平成23年9月30日)	当事業年度 (平成24年9月30日)
建物	637百万円	589百万円
土地	2,037	2,037
借地権	1	1
投資有価証券	13	13
賃貸不動産	192	184
計	2,881	2,826

上記のうち工場財団設定分

	前事業年度 (平成23年9月30日)	当事業年度 (平成24年9月30日)
賃貸不動産	145百万円	143百万円
計	145	143

担保付債務

	前事業年度 (平成23年9月30日)	当事業年度 (平成24年9月30日)
買掛金	419百万円	485百万円
1年内返済予定の長期借入金	805	701
長期借入金	1,726	1,073
計	2,950	2,260

上記のうち工場財団設定分

	前事業年度 (平成23年9月30日)	当事業年度 (平成24年9月30日)
長期借入金	500百万円	500百万円
計	500	500

2 保証債務

債務保証

次の関係会社について、金融機関からの借入れに対し債務保証を行っております。

前事業年度(平成23年9月30日)

保証先	金額	内容
マミーサービス㈱	116百万円	借入債務
計	116百万円	

当事業年度(平成24年9月30日)

保証先	金額	内容
マミーサービス㈱	23百万円	借入債務
計	23百万円	

3 当座貸越契約

運転資金の効率的な調達を行うため、13取引金融機関と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく借入未実行残高は以下のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年9月30日)	当事業年度 (平成24年9月30日)
当座貸越契約極度額	9,800百万円	9,500百万円
借入実行残高	-	-
差引額	9,800	9,500

4 関係会社項目

各科目に含まれている関係会社に対するもの

	前事業年度 (平成23年9月30日)	当事業年度 (平成24年9月30日)
買掛金	441百万円	450百万円
計	441	450

(損益計算書関係)

1 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
賃貸不動産	1百万円	- 百万円

2 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
建物	5百万円	2百万円
構築物	0	-
工具、器具及び備品	9	5
賃貸不動産	-	0
無形固定資産	-	8
退店撤去費用	11	6
計	27	23

3 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
土地	- 百万円	3百万円
賃貸不動産	294	-

4 減損損失

当社は、以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

前事業年度（自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日）

用途	種類	場所
営業店舗	土地	マミーマーケットTOP籠原店 (埼玉県熊谷市)

当社は、営業店舗及び賃貸資産ならびに遊休資産については個別物件単位で資産のグルーピングを行っております。

当事業年度において、営業店舗に係る一部土地について地価の下落が見られたため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（71百万円）として特別損失に計上いたしました。

なお、当該資産の回収可能価額は正味売却価額により測定しております。

当事業年度（自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日）

用途	種類	場所
営業店舗	建物	マミーマーケット千代田店 (埼玉県坂戸市)
営業店舗	建物	マミーマーケット岩槻城南店 (埼玉県さいたま市)
営業店舗	建物	マミーマーケット杉戸店 (埼玉県北葛飾郡杉戸町)
営業店舗	建物	マミーマーケット狭山ヶ丘店 (埼玉県所沢市)
営業店舗	建物	マミーマーケット神明町店 (埼玉県川越市)
賃貸不動産	賃貸不動産	上福岡 (埼玉県上福岡市)
賃貸不動産	賃貸不動産	松本町 (埼玉県東松山市)

当社は、営業店舗及び賃貸資産ならびに遊休資産については個別物件単位で資産のグルーピングを行っております。

当事業年度において、継続的な地価の下落及び資産グループ単位の収益を踏まえて検証した結果、一部の営業店舗及び賃貸不動産については、将来キャッシュ・フローによって当該資産の帳簿価額を全額回収できる可能性が低いと判断し、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（228百万円）として特別損失に計上いたしました。その内訳は、建物及び構築物120百万円及び賃貸不動産107百万円であります。

なお、当該資産の回収可能価額は正味売却価額により測定しており、賃貸不動産については不動産鑑定評価基準に基づいて自社が算定した金額により評価し、その他売却や他への転用が困難な資産は0円評価としております。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成22年10月1日至平成23年9月30日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数	増加	減少	当事業年度末株式数
普通株式	1,297株	77株	-	1,374株

(注)自己株式の増加は、単元未満株式の買取によるものであります。

当事業年度(自平成23年10月1日至平成24年9月30日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数	増加	減少	当事業年度末株式数
普通株式	1,374株	64株	-	1,438株

(注)自己株式の増加は、単元未満株式の買取によるものであります。

(リース取引関係)

(借主側)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主にスーパーマーケット事業における店舗設備であります。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「3. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年9月30日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額
(単位：百万円)

	前事業年度(平成23年9月30日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品	209	171	37
合計	209	171	37

(単位：百万円)

	当事業年度(平成24年9月30日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品	126	123	2
合計	126	123	2

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年9月30日)	当事業年度 (平成24年9月30日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	37	3
1年超	3	-
合計	40	3

(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額、支払利息相当額及び減損損失

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
支払リース料	171	37
リース資産減損勘定の取崩額	67	-
減価償却費相当額	93	34
支払利息相当額	3	0

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(5) 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

(有価証券関係)

子会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は130百万円、前事業年度の貸借対照表計上額は130百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成23年9月30日)	当事業年度 (平成24年9月30日)
繰延税金資産(流動)		
ポイントカード損金不算入額	232百万円	239百万円
賞与引当金繰入限度超過額	131	119
開店前経費	-	126
未払事業税	25	50
その他の未払税金	29	32
その他	40	125
計	459	693
繰延税金資産(固定)		
退職給付引当金繰入限度超過額	302	280
役員退職慰労引当金繰入限度超過額	228	214
減損損失	512	444
減価償却超過額	137	139
資産除去債務	110	154
その他	417	210
小計	1,708	1,443
評価性引当額	317	309
計	1,391	1,134
繰延税金資産(固定)の純額	1,391	1,134
繰延税金資産の純額	1,850	1,828

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成23年9月30日)	当事業年度 (平成24年9月30日)
法定実効税率	40.4%	40.4%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.3	0.6
評価性引当金の増減	24.0	1.9
住民税均等割	6.6	5.1
税率変更による影響	-	13.5
その他	0.2	0.0
税効果会計適用後の法人税等の負担率	23.5	61.6

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日公布され、平成24年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の40.4%から平成24年10月1日に開始する事業年度から平成26年10月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については37.8%に、平成27年10月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については35.4%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は209百万円減少し、法人税等調整額が209百万円、その他有価証券評価差額金が0百万円、それぞれ増加しております。

(企業結合等関係)
該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

主に店舗用土地建物の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から賃借期間終了日まで(賃借期間は主に20年)と見積り、割引率は当該使用見込期間に対応する国債の利回りを使用して資産除去債務の金額を計算しております。

ハ 当該資産除去債務の総額の増減

	前事業年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
期首残高(注)	290百万円	295百万円
見積りの変更による増加額	-	158
時の経過による調整額	5	4
資産除去債務の履行による減少額	-	22
期末残高	295	436

(注) 前事業年度の「期首残高」は「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用したことによる期首時点における残高であります。

資産除去債務のうち貸借対照表に計上していないもの

当社は、主に店舗用土地建物の不動産賃貸借契約に基づき、賃借した土地建物の返還時における原状回復に係る債務を有しておりますが、当該債務の一部については、関連する賃借資産の賃借期間が明確でなく、将来店舗を閉鎖する予定もないことから、資産除去債務を合理的に見積ることができません。そのため、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
1株当たり純資産額	1,614円54銭	1株当たり純資産額 1,650円10銭
1株当たり当期純利益金額	93円22銭	1株当たり当期純利益金額 55円4銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(百万円)	1,006	594
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(百万円)	1,006	594
普通株式の期中平均株式数(株)	10,795,442	10,795,391

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

有価証券の金額が資産の総額の100分の1以下であるため、財務諸表等規則第124条の規定により記載を省略しております。

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価償却累計額または償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	11,784	522	139 (120)	12,167	6,751	449	5,415
構築物	1,520	47	0	1,567	1,151	102	415
機械及び装置	31	-	-	31	31	0	0
車両運搬具	13	-	-	13	10	2	3
工具、器具及び備品	3,098	546	78	3,565	2,642	508	923
土地	8,538	-	8	8,529	-	-	8,529
建設仮勘定	567	1,491	995	1,063	-	-	1,063
有形固定資産計	25,553	2,607	1,222 (120)	26,938	10,586	1,063	16,351
無形固定資産							
借地権	43	-	-	43	-	-	43
ソフトウェア	488	59	27	520	314	100	205
電話加入権	11	-	-	11	-	-	11
ソフトウェア仮勘定	29	-	29	-	-	-	-
無形固定資産計	573	59	57	575	314	100	261
長期前払費用	555	173	62	666	76	7	589
賃貸不動産	1,376	1,447	116 (107)	2,707	754	30	1,952

(注) 1. 「当期減少額」欄の()内は内数で、当期の減損損失額であります。

2. 当期増加額の主なものは次のとおりであります。

- (1) 有形固定資産の当期増加額のうち主なものは、西平井店474百万円、飯山満駅前店156百万円の出店によるものであります。
- (2) 賃貸不動産の当期増加額のうち主なものは、彩裕フーズ(株)の川越工場1,409百万円であります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	115	-	-	-	115
ポイント引当金	574	468	408	-	634
賞与引当金	324	315	324	-	315
転貸損失引当金	156	108	60	-	203
役員退職慰労引当金	564	41	-	-	606

(2) 【主な資産及び負債の内容】

資産の部

1) 現金及び預金

内訳	金額(百万円)
現金	656
銀行預金	
当座預金	807
普通預金	1,546
定期預金	41
別段預金	1
小計	2,396
合計	3,052

2) 売掛金

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
商品券	27
その他	1
合計	29

(ロ) 売掛金の発生及び回収ならびに滞留状況

当期首残高 (百万円)	当期発生高 (百万円)	当期回収高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	回収率(%)	滞留期間(日) (A) + (D)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	2 (B) 366
39	682	692	29	96.0	18.3

3) 商品

区分	金額(百万円)
鮮魚	39
精肉	92
青果	53
食品	579
日配品	151
菓子	122
雑貨	267
その他	313
合計	1,617

4) 貯蔵品

区分	金額(百万円)
ポイントカード	4
その他	2
合計	6

5) 差入保証金

相手先	金額(百万円)
株式会社LIXILピバ	1,066
株式会社GK	848
株式会社新都市ライフ	348
有限会社ステコビル	272
紅和株式会社	270
その他	4,287
合計	7,094

負債の部

1) 買掛金

相手先	金額(百万円)
関東国分株式会社	1,557
株式会社三菱食品	527
株式会社シジシージャパン	485
彩裕フーズ株式会社	450
株式会社日本アクセス	280
その他	4,808
合計	8,111

2) 長期借入金

相手先	1年内返済予定の 長期借入金 (百万円)	長期借入金 (百万円)	合計(百万円)
株式会社埼玉りそな銀行	380	633	1,013
株式会社三菱東京UFJ銀行	129	200	329
株式会社武蔵野銀行	140	160	300
株式会社東和銀行	90	120	210
日本生命保険相互会社	51	80	131
その他	33	50	83
合計	824	1,243	2,068

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	10月1日から9月30日まで
定時株主総会	12月中
基準日	9月30日
剰余金の配当の基準日	3月31日 / 9月30日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 本店
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 なお、電子公告は、当社のホームページに記載しており、そのアドレスは、次のとおりであります。 http://mammymart.co.jp/
株主に対する特典	1. 株主優待制度の内容 優待券(100円券) 1,000円以上の買物につき、1,000円ごとに 1枚利用可。 2. 権利確定日 毎年9月30日及び3月31日(年2回) 3. 対象株主 100株以上 20枚 500株以上 80枚 1,000株以上 100枚

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類ならびに確認書

事業年度（第46期）（自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日）平成23年12月16日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成23年12月16日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第47期第1四半期）（自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日）平成24年2月14日関東財務局長に提出

（第47期第2四半期）（自 平成24年1月1日 至 平成24年3月31日）平成24年5月15日関東財務局長に提出

（第47期第3四半期）（自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日）平成24年8月14日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成23年12月26日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使）に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年12月18日

株式会社 マミーMarkt
取締役会 御中

監査法人アヴァンティア

代表社員 業務執行社員	公認会計士	小笠原 直
業務執行社員	公認会計士	入澤 雄太

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社マミーMarktの平成23年10月1日から平成24年9月30日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め、全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社マミーMarkt及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社マミーMarktの平成24年9月30日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社マミーMarktが平成24年9月30日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
 2. 連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成24年12月18日

株式会社 マミーMarkt

取締役会 御中

監査法人アヴァンティア

代表社員 業務執行社員	公認会計士	小笠原 直
業務執行社員	公認会計士	入澤 雄太

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社マミーMarktの平成23年10月1日から平成24年9月30日までの第47期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め、全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社マミーMarktの平成24年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
- 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。